富山県新湊市

市内遺跡試掘調査報告

新湊市鏡宮地区土地区画整理事業に伴う高島Ａ遺跡試掘調査

2002年度

2003年３月

新湊市教育委員会

富山県新湊市

市内遺跡試掘調査報告

新湊市鏡宮地区土地区画整理事業に伴う高島A遺跡試掘調査

2002年度

2003年3月

新湊市教育委員会

序

新湊市は、かつては天然の良好であった放生津潟を擁し、その潟の周辺を小河川が縦横に走って周辺地域と結び、その水の利を活かして、古くから日本海側の海運・漁業の拠点として発展してきました。

新湊には鎌倉時代に越中守護所がおかれ、また室町幕府の将軍足利義材（義植）が滞在するなど、越中の政治・経済・文化の中心として栄えました。

先人が残した歴史・文化は、現代に生きる私たちが未来へ引き継ぐべき貴重な財産です。市内に残る遺跡も、地域に根ざした歴史を語り継いでくれる重要な郷土資料と言えます。

本報告書は、新湊市鏡宮地区で計画されている土地区画整理事業に先立って実施した、高島A遺跡の試掘調査結果をまとめたものです。

高島A遺跡は、およそ30年前に新湊市立南部中学校の生徒たちが工事の際に出土した遺物の収集を進めたことで、弥生時代の遺跡であることが知られるようになりました。発掘調査では、これを裏付けるように多くの遺構・遺物の存在が確認されています。

今後これらの遺跡を保護し、また地域の歴史を広く一般に紹介することに本報告書が多少なりとも役立つことができれば幸いと存じます。

最後に現地調査から報告書作成まで多大なご協力・ご助言を賜った地権者及び関係諸氏に感謝申し上げますとともに、今後とも文化財の保護に変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年３月

新湊市教育委員会
教育長　竹　内　伸　一

例　言

1　本書は、平成14年度に実施した富山県新湊市鏡宮地内に所在する、高島A遺跡の試掘調査報告書である。

2　試掘調査は、新湊市鏡宮地区で計画された土地区画整理事業に先立ち、新湊市教育委員会が主体となり実施した。調査費用については、新湊市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付をうけた。

3　調査事務所は新湊市教育委員会生涯学習課に置き、生涯学習課長高林幸作が調査事務を総括した。
調査に際しては、富山県教育委員会・富山県埋蔵文化財センターをはじめ、鏡宮自治会・(社)新湊市シルバー人材センター、原建設株式会社の協力を得た。

4　現地調査は、新湊市教育委員会生涯学習課文化財保護主事金三津英則が担当した。

5　現地調査参加者は、下記のとおりである。(敬称略　五十音順)
石須　栄信　　海老　伸悦　　木田美智代　　紺　　留治　　橋爪　芳雄　　本林　芳子
森原紀世子；(社)新湊市シルバー人材センター
泉野　麗子　　浦山みこと　　楠井　悦子　　矢野由紀恵

6　本書の作成は、下記の協力を得て新湊市教育委員会生涯学習課文化財保護主事金三津英則が行った。
(敬称略　五十音順)
泉野　麗子　　生方佐都美　　浦山みこと　　楠井　悦子　　松下由利子　　矢野由紀恵

7　調査の実施から本書の作成にあたっては、下記の方々から貴重なご教示・ご指導をいただいた。記して謝意を表したい。(敬称略　五十音順)
岡田　一広　　池田　恵子　　上野　　章　　久々　忠義　　高梨　清志

8　出土遺物、記録図面等は新湊市教育委員会が一括して保存・公開している。

9　本書の土層及び出土遺物の色調は、小山忠正、竹原秀雄編著『新版標準土色帳』(1996年版)に準拠している。

10　出土遺物の番号は、実測図・出土遺物観察表・写真図版の番号にそれぞれ対応している。

11　遺物実測図中のスクリーントーンの張り込みは次のとおり表現した。

須恵器　　珠洲焼　　煤等(中世土師器皿のみ)　　赤彩

目　次

序　文

例　言

目　次

Ⅰ　はじめに

1　遺跡の位置と環境 …… 1

2　調査に至る経緯と経過 …… 3

Ⅱ　調査の概要

1　調査の方法 …… 4

2　調査の概要 …… 4

（1）基本層序 …… 4

（2）遺構 …… 5

（3）遺物 …… 6

Ⅲ　調査のまとめ

1　調査対象地の地形復元について …… 17

2　調査のまとめ …… 20

表

第1表　試掘トレンチ一覧（1）

第2表　試掘トレンチ一覧（2）

第3表　出土遺物観察表（1）

第4表　出土遺物観察表（2）

第5表　出土遺物観察表（3）

第6表　出土遺物観察表（4）

第7表　出土遺物観察表（5）

第8表　出土遺物観察表（6）

第9表　出土遺物観察表（7）

挿　図

第1図　新湊市位置図

第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1／50,000）

第3図　調査対象地位置図（1／5,000）

第4図　出土遺物実測図（1）（1／3）

第5図　出土遺物実測図（2）（1／3）

第6図　出土遺物実測図（3）（1／3）

第7図　出土遺物実測図（4）（1／3）

第8図　出土遺物実測図（5）（1／3）

第9図　出土遺物実測図（6）（1／3）

第10図　出土遺物実測図（7）（1／3）

第11図　出土遺物実測図（8）（1／3）

第12図　出土遺物実測図（9）（1／3）

第13図　出土遺物実測図（10）（1／3）

第14図　調査対象地地形図（1／2,000）

第15図　調査結果概要図（1／1,500）

写真図版

写真図版1　調査対象地遠景・作業風景

写真図版2　作業風景

写真図版3　基本層序・T－14

写真図版4　T－21

写真図版5　T－21

写真図版6　T－21・22・33

写真図版7　T－34

写真図版8　T－34・35・49

写真図版9　T－51

写真図版10　T－52・53

写真図版11　T－54・55・56

写真図版12　T－58

写真図版13　T－59・60

写真図版14　出土遺物

写真図版15　出土遺物

写真図版16　出土遺物

写真図版17　出土遺物

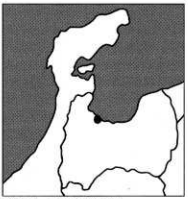
写真図版18　出土遺物

写真図版19　出土遺物

写真図版20　出土遺物・航空写真

Ⅰ　はじめに

1　遺跡の位置と環境

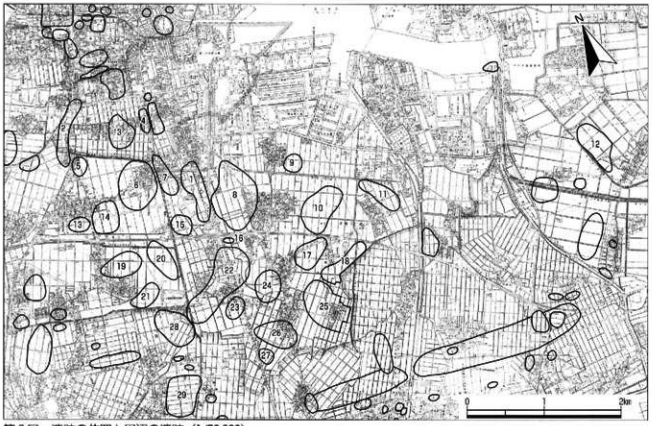


第１図　新湊市位置図

新湊市は、富山湾へ注ぐ庄川右岸に広がる射水平野の北端部を中心にその市域を形成している。射水平野は、神通川・庄川をはじめとする諸河川によって運ばれた土砂の堆積により形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、その北端部に位置する新湊市は、標高約０～５ｍと県内でも最も標高の低い地域である。

現在では富山新港となっているが、市域のほぼ中央部には、かつての放生津潟が存在していた。放生津潟は約6,000年前のいわゆる縄文海進の頃には、現在の海岸線より約７㎞内陸に位置する射水丘陵付近にまで広がっていたとされるが、丘陵部より流れる河川の堆積作用や、その後の気候の寒冷化による海退現象とあわせて徐々に平野が形成され、それに伴い人々が生活圏を広めていった。

古代には高岡市伏木に国府が置かれ、付近に亘理湊が設けられた。中世に入ると、現在の新湊市街地である放生津にその機能が移されたと考えられており、鎌倉時代後半には放生津の地名が現れるようになる。放生津は天然の良港である放生津潟を擁し、潟に流れ込む大小の河川の集積地となるなど、地勢に恵まれていた。そのため中世には、日本海を介した交通や水運の要衝として発展し、守護所が設置されるなど、越中の



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1/50,000）
1．高岡Ａ遺跡　2．中善根西遺跡　3．中善根遺跡　4．中善根館遺跡　5．松木遺跡　6．朴木Ｃ遺跡　7．朴木Ａ遺跡　8．作道遺跡　9．久々湊遺跡　10．野村遺跡　11．東津端江遺跡　12．下村加茂遺跡　13．松木大ノ田遺跡　14．松木中原遺跡　15．鎌宮北遺跡　16．鎌宮遺跡　17．津幡江西遺跡　18．津幡江遺跡　19．坪家原遺跡　20．芦咲原東Ｂ遺跡　21．坪家原東Ａ遺跡　22．高木・荒畑遺跡　23．南浦遺跡　24．今井西遺跡　25．今井遺跡　26．今井南遺跡　27．今井二島遺跡　28．北高木遺跡　29．小林遺跡

政治・経済・文化の中心として栄えた。

乾田化の進んだ現在ではかつての面影を留めていないが、僅か数十年前までは縦横に水路が走り、タズルやイクリと呼ばれる小型の船を交通・運搬に用いる水郷地帯として知られていた。このように非常に低湿な環境下にあって、また山地や丘陵或いは台地等を持たない市内の遺跡は、蛇行する河川によって形成された自然堤防上や沿岸流によって形成された砂州上など、周囲より僅かに標高の高い微高地を中心にして形成されている。また標高が非常に低い地域であるため、気候の影響、特に平均気温の上下に伴う海水準の変動による環境の変化が激しく、気候の寒冷化する縄文時代晩期頃から弥生時代、中世において遺跡数が増加し、気候の温暖期には遺跡が減少する傾向が認められる。

高島A遺跡は、新湊市南部の国道8号北側に所在する弥生時代～古墳時代を中心とする遺跡であり、遺跡範囲はかつての西神楽川流域に沿うような形で、南北約750m、東西約170mにわたって広がっている。一帯の標高は約1.5～1.8mである。この遺跡は、昭和43年から昭和46年にかけて新湊市立南部中学校の生徒達が、当時着工されていた西部主幹排水路やほ場整備事業の工事掘削土中に散布していた土器片などを採集したことから存在が知られるようになった。その成果は昭和46年に『古代遺跡中露出遺物拾得物内訳明細書』として小冊子にまとめられており、ほぼ現在の高島A遺跡、沖幡江遺跡、高木・荒畑遺跡、松木中鹿遺跡、朴木A遺跡の範囲にあたる場所で採集された遺物が紹介されている。この中で高島A遺跡は、「高島南部地先弥生遺跡」として紹介されており、「弥生中期貝殻施文土器片」が多数含まれていると報告されている。

平成9年に国道472号南部中学校口交差点隣接地で実施された、民間開発に伴う発掘調査では、弥生時代中期後半の住居跡や方形周溝墓が見つかっており、その北側で平成10年に実施された国営付帯県営農地防災事業西部第6号排水路の改修に伴う試掘調査では、古墳時代前期の土器が土坑内からまとまって出土している。また現在は作道遺跡の範囲に含まれているが、平成9年本調査地区の国道472号を挟んだ対面で実施された、民間開発に伴う試掘調査でも弥生時代中期後半の遺構が確認されている。これらの点から、南部中学校東側を中心とする地域に弥生時代中期～古墳時代前期にかけての遺構の広がりが推定されていた。

高島A遺跡の周辺は、市内でも比較的遺跡が多く所在する地域である。東側に隣接して弥生時代中期以降を主体とする作道遺跡、西側には、昭和40年の西部主幹排水路工事の際に、弥生土器を主体とする土器やシジミ貝が多数露出していたと伝えられている朴木A遺跡があり、南側には、縄文時代後期から近世までの複合遺跡である高木・荒畑遺跡が、北西の高岡市牧野地区には、弥生時代～中世までの複合遺跡として著名な中曽根遺跡などがある。またこれらの外縁部に位置する、朴木C遺跡・松木遺跡・松木中鹿遺跡・津幡江遺跡でも弥生時代中期～古墳時代前期の遺構が確認されている。

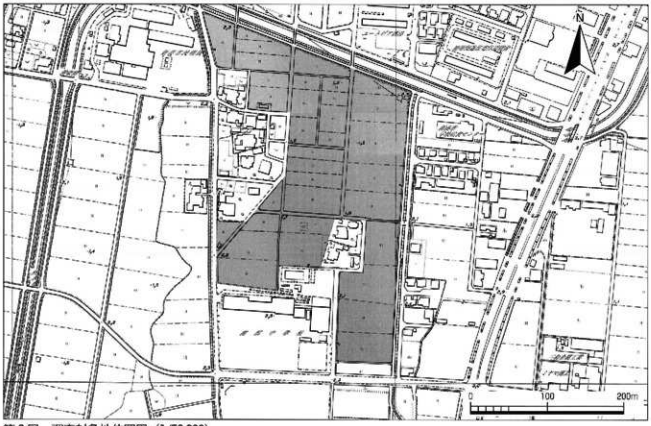
このように高島A遺跡を含めた付近一帯では、弥生時代中期頃から古墳時代前期にかけての遺跡が多く見られ、特に作道遺跡や朴木A遺跡は、隣接しているうえに遺跡の存続時期も重複する部分が多く、今後の調査の進展が待たれるところである。これらの遺跡の多くは、かつての神楽川流域に相当する地域に立地し、流域では上流に位置する大島町北高木遺跡・小林遺跡など縄文時代後期から中世にかけての多くの遺跡の存在が知られており、この神楽川が遺跡の立地に重要な役割を果たしていたことが指摘されている。

2　調査に至る経緯と経過

平成13年６月、新湊市都市開発課から新湊市鏡宮地区における土地区画整理事業計画の照会があった。これを受けて市教育委員会では、事業計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である高島Ａ遺跡が所在し、また西側にも朴木Ａ遺跡が隣接しているため、事業計画地全域を対象とした試掘調査が必要である旨回答し、協議の結果、試掘調査は平成14年度に新湊市教育委員会が国庫補助・県費補助金の交付を受けて実施することとなった。

土地区画整理事業は組合施行の予定であるが、試掘調査実施予定の１か月前にあたる平成14年９月の段階では、土地区画整理組合が未設立であったため、調査の実施にあたっては新湊市都市開発課・地元鏡宮自治会・市教育委員会との三者で協議を進めた。９月20日には新湊市農村環境改善センターにおいて地権者に対する調査説明会を開催して試掘調査に対する協力を依頼し、地権者の承諾を得た後に、遺跡範囲確認の試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は平成14年10月３日から11月７日にかけて実施した。調査対象面積は事業計画地全域の約54,120㎡である。



第３図　調査対象地位置図（1/50,000）

Ⅱ　調査の概要

1　調査の方法

調査は、バックホウにより幅約0.8～0.9mの試掘溝（トレンチ、以下Tと略す）を現水田の区画に沿って設定し、バックホウによる掘削後人力によりトレンチ床面及び壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認するとともに、トレンチ壁面の土層及び平面の実測図を作成し、写真による記録を取った。土層図の作成にあたっては、調査対象地内に仮の水準点を10箇所設置し、標高を基準に実測を行った。

調査対象地内では翌年も耕作が行われるため、バックホウによる掘削は原則として第1遺構面と考えられる黄褐色粘土層（地表面より約15～40cm）までとし、掘削深度が遺構確認面に達しない場合など、下層確認が必要な場合には、人力により幅約30cm程度のサブトレンチを設定して行った。なお、確認した遺構については、時期や内容把握のために部分的な発掘のみ行ったため、規模や深さの判明しない部分も生じている。

掘削に際しては、耕作土と基盤土の混入を避けるために、それぞれを掘削したトレンチの両側に分けて積み上げ、記録作業の完了次第順次埋戻しを行った。埋戻しは基盤土、耕作土の順に行い、基盤土の埋戻しの際にはバックホウのバケットにより転圧を加えた後、再度キャタピラで踏み固め、その上に耕作土を埋め戻した。発掘したトレンチはT－1～60までの計60本で、総発掘面積は1,312m²である。

2　調査の概要

（1）基本層序

調査対象地の現況は、水田・畑地である。標高は約0.9～1.3mで、標高差は比較的少ない。全体的に遺構確認面までの深度は浅く、特に調査対象地の南側では遺構確認面が水田耕作土直下に位置する状況であったため、ほ場整備などによる削平の影響が遺構確認面にまで及んでいる。

基本層序は上層から、Ⅰ層（黒褐色粘質土・黄灰色粘土）現耕作土。Ⅱ層（黄褐色粘土・暗灰黄色粘土、同色シルト）中世遺構確認面。Ⅲ層（黒色粘土・黒褐色粘土）弥生時代～古代遺物包含層。Ⅳ層（黄灰色粘土・にぶい黄色粘土、同色シルト・黄褐色シルト・灰色粘土）弥生～中世遺構確認面。Ⅴ層（灰黄色粘土）となる。Ⅱ層はT－13・14・15・39のみでの確認であるが、これらの場所ではⅢ・Ⅳ層が深く落ち込んで谷状の地形を形成し、Ⅱ層はこの谷部分に堆積している。土色・土質からはⅣ層との区別は難しいが、谷地形の上面に堆積しているためか、Ⅳ層と比較してやや水分が多く軟質である。谷以外の場所では、削平により完全に消滅しているものと考えられる。Ⅲ層は大部分が後世の削平の影響を受けており、場所によっては完全に失われている。Ⅳ層が深く落ち込む部分では比較的厚く堆積しているが、場所的には遺跡の周辺部にあたり、遺物もほとんど出土しない。Ⅳ層の土質は場所によって様々であるが、これは現在の地下水位や、地表からの深さ等による水分の差異によるもので、基本的には同質のものと考えられるため一括した。調査対象地南東部分の遺構集中場所では、一部に削平の影響がみられるが、現在の標高で約1.0～1.1m前後に位置し、比較的安定した堆積状況である。Ⅴ層はT－11・22・40のサブトレンチのみでの確認であるため、全体像は不明である。Ⅴ層以下については掘削深度の関係や、湧水が激しくなるため確認を行っていない。

（2）遺構（第15図）

調査の結果、対象地の南東部を中心に、弥生時代中期～中世の遺跡の広がりを確認した。特に南部中学校東側～北側一帯のT－19～21・33～35・48～60では弥生時代中期～古墳時代前期の遺構・遺物が集中してお

り、遺跡の中心的時期となる。遺構については試掘トレンチの幅が約0.9mと狭く、また遺構の大部分は検出のみにとどめたため、各遺構の時期や性格等を確実に把握しているわけではない。また、現地調査ではトレンチ内で一部でも完結する遺構を土坑、それ以外を溝や落ち込みとして捉えたため、中には他の遺構との誤認も含まれている可能性がある。以下時期を捉えることのできた主な遺構についての概要を記す。

弥生時代～古墳時代

弥生時代～古墳時代の遺構は全てⅣ層上面で検出しており、確認できる最も古い遺構は弥生時代中期のものである。弥生時代中期の遺構には土坑・溝・性格不明の落ち込みがあり、T－58を中心にして、主に対象地の南東部に広がりをみせる。T－51西側で検出した土坑は、確認した部分で一辺約1.1mの不整形な方形を呈し、壺の口縁部片（第8図110・111）が2個体分出土している。T－58東端には幅11m以上の落ち込みがあり、落ち込みの肩付近からほぼ一個体分の壺と小型の甕（第12図218・219）がまとまって出土している。落ち込みの深さや幅については確認していないが、平成10年度に実施した試掘調査の結果から、落ち込みはトレンチ東側の西部第6号排水路付近まで広がるものと考えられる。その他T－33・53・60でそれぞれ溝を検出しているが、全体の出土遺物量からみても調査対象地内においての遺構数はそれほど多くはなく、当期の遺構は平成9年度本調査地区や作道遺跡の所在する南～東側にかけて広がるものと推定できる。

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物はT－19～21・33～35・48～60の広範囲にわたって確認できる。遺構には土坑・溝・柱穴・性格不明の落ち込みがあり、全体の出土遺物のうち大部分が当期に属するため、発掘を行っていない他の遺構についても、当期に含まれるものが多いと考えられる。発掘を行った遺構が少ないため、各遺構の時期や分布状況等を明確にすることはできないが、T－34・54・56で弥生時代後期、T－21・50・54で古墳時代前期頃の比較的まとまった遺物が遺構から出土している。

T－34では、柱穴とみられる二段掘りの小穴や周溝状の遺構が確認でき、遺構内から弥生時代後期後半頃の遺物（第5図60・64・68、第6図69～74）が出土している。民家を挟んだ東側のT－50付近では、耕作の際に石組炉のような円礫を廻らせた場所が幾つか見られたともいわれており、付近一帯が居住域であったことが推定できる。T－54中央部の溝内からは、弥生時代終末期を中心とした土器（第10図153～176、第11図177～180）がまとまって出土しているが、耕作土直下が遺構確認面となるため、遺構の残存状況は良好ではない。また耕作土と遺構確認面の境界付近からも、弥生時代後期前半～後半にかけての遺物が多く出土している。T－56では東側に向かう幅7m以上の落ち込みがあり、弥生時代後期後半を中心とする遺物（第11図181～201、第12図202～210）がまとまって出土している。深さや広がりなどは確認していないが、T－58の落ち込みと同一となる可能性が高い。

T－21では出土遺物の大部分が古墳時代前期のもので占められており、確認した遺構の多くが当期に属するものと考えられる。特に中央部やや東寄りで検出した溝からは、当期の遺物が多量に出土している（第5図32～45、第6図46～55）。溝は幅約2mで、深さは確認していないが、甕類を中心に全面赤彩の小型丸底壺、スタンプ文を施す壺、小型器台など祭祀的色彩の濃い遺物も含んでいる。溝を境にして東側では遺構・遺物が集中するが、西側では土坑1基の他には遺物もほとんど出土しなくなるため、この付近が遺跡範囲の西端と考えられる。T－50中央部の幅約5mの溝からは、古墳時代前期の甕を中心にした土器（第8図98～106）が出土している。

中　世

珠洲焼を中心とした中世の遺物は、調査対象地のほぼ全域で採集することができるが、遺構として確認できるのはT－14・22・59のみである。T－14ではⅡ層上面で土坑・溝を検出しているが、遺構から遺物の出土はほとんど見られず、周囲のトレンチにも遺構は広がらない。T－22ではⅣ層上面で遺構を確認している

が、周囲の地形などの状況から実際にはⅣ層ではなく、Ⅱ層との誤認の可能性がある。他にT－59西端で土坑を1基検出している。基本的に中世の遺構・遺物が主体となるのはT－14・22等であり、弥生時代～古墳時代の遺構とは重複せず、調査対象地内では集落等の形成はみられなかったものと考えられる。

（3）遺物（第4図～第13図）

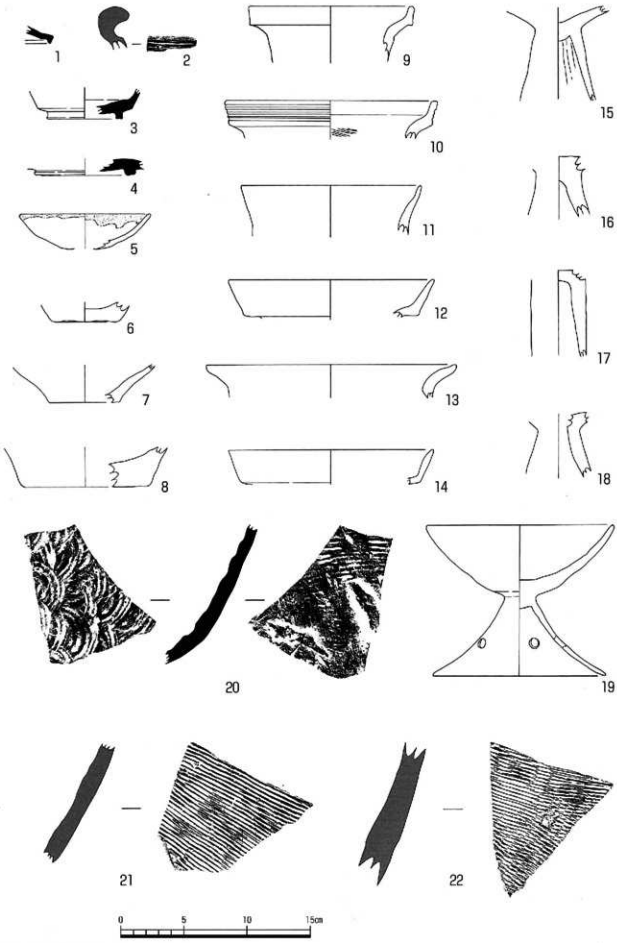
出土遺物には弥生土器、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の須恵器、中世の珠洲焼・中世土師器皿・青磁・瓦質土器、近世の越中瀬戸等があり、その他ヒスイ・緑色凝灰岩・鉄石英等の原石、石斧、土錘も少量出土している。出土遺物の大部分は弥生～古墳時代の土器であり、壺・甕・高坏・器台・蓋などの各器種がみられる。

出土遺物については、時期が弥生時代中期～古墳時代前期までの比較的長期間にわたり、また整理作業期間が限られていたため、接合や復元等も十分に進んでおらず、器種分類や詳細な時期の検討を行うまでには至らなかった。本報告書に掲載した遺物は、一括出土と考えられるものや、遺構出土の資料を優先し、口縁部や底部等の特徴的な部分のみを抽出して図化を行ったものである。以下時期ごとに主要遺物の概要を記す。

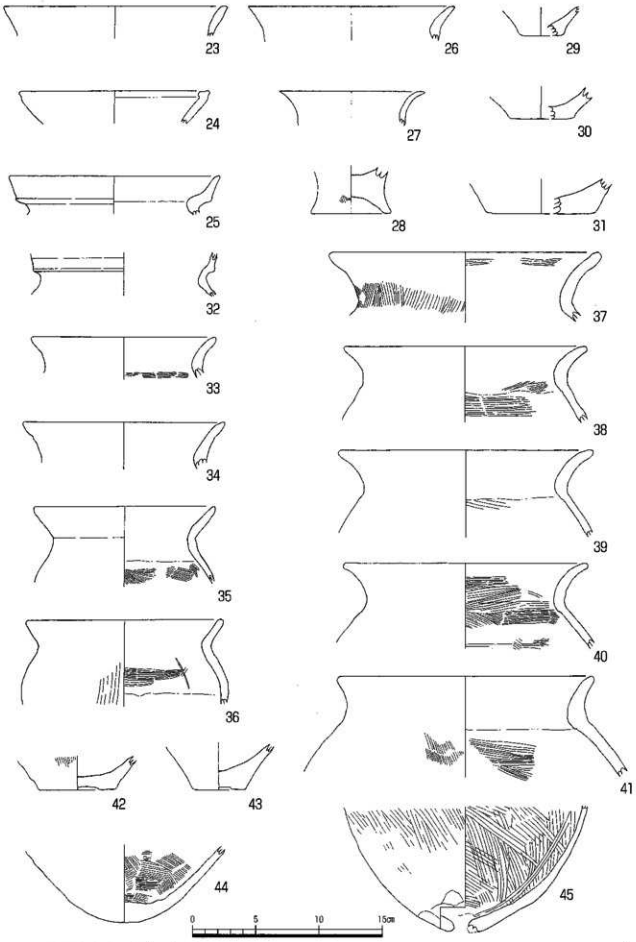
弥生～古墳時代の遺物（6～19・23～88・92～116・120～224）

遺構と同様に時期の確認できる遺物としては弥生時代中期のものが最も古く、南部中学校の東側を中心に出土している。218・219はT－58の落ち込みの落ち際からの出土である。218の壺は、最大径が胴部中位にあり、やや細く直立気味の頸部に大きく外反する口縁部が付く。口縁部内面には櫛状工具による羽状文、口縁端部には同様のキザミ、頸胴部境には列点文が施される。内面は底部～肩部に横方向のハケ調整、外面は底部付近に僅かにハケ調整が確認できるが、底部から口縁部付近まで丁寧なミガキが施される。また大部分が剥落しているが、頸胴部境から底部にかけて赤彩の痕跡が残る。219は小型の甕で、外面に横方向のハケ、内面には接合部に指頭圧痕が残る。112・113はT－53の溝からの出土で、両者共に内外面ハケ調整され、113は口縁端部内面に櫛状具による斜行刺突文が施される。110・111はT－51の方形土坑からの出土で、それぞれ口縁部内面に羽状文、口縁端部にキザミが施された壺の口縁部と考えられる。今回の調査で出土した弥生時代中期の遺物は、内外面ハケ調整で、文様は羽状文・刺突文・口縁端部のキザミに限られ、櫛描文をもつものは一点もみられないことから、弥生時代中期後半の戸水B式期に比定できる。

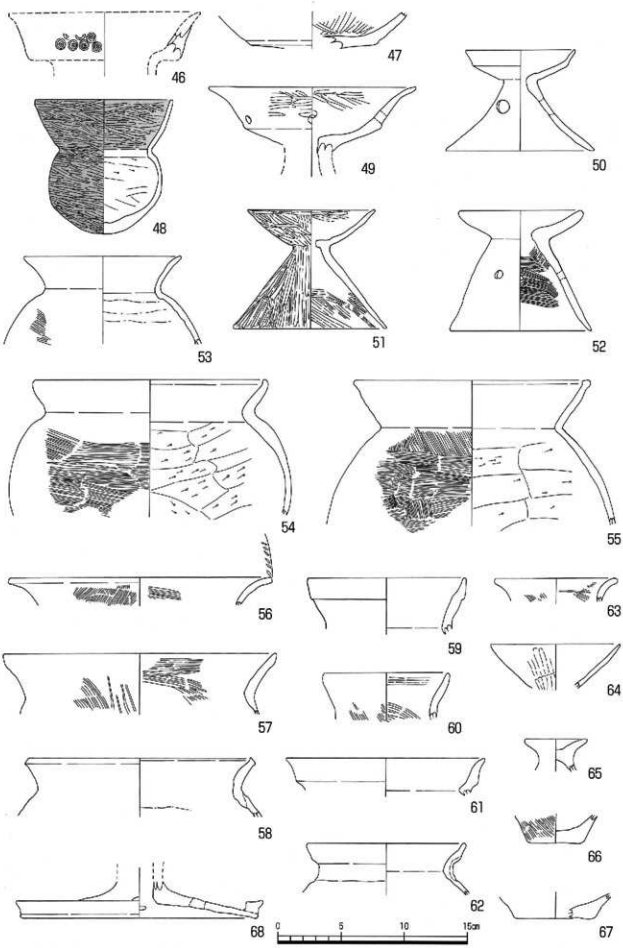
弥生時代後期から古墳時代前期にかけては遺物量が最も多くなり、図示していない破片の大部分も当期に含まれると考えられる。32～55はT－21中央部の溝からの出土である。甕類はほぼ全てがくの字状口縁甕で占められており、外面ハケ又はナデ調整、内面ハケ調整を施し、口縁部が外反する33～35・37～41や口縁部がやや内湾する36、器厚の薄い53などがある。54・55は口縁端部を肥厚し、肩部外面に横方向のハケ調整、内面は頸部付近までケズリを行ういわゆる布留系の甕である。有段口縁甕は口縁部無文の32の1点のみが確認できる。底部には丸底の44や平底の42・43がみられる。45は焼成前に穿孔を行う有孔鉢である。46は口縁の一部しか残らないが二重口縁壺と考えられるもので、外面にスタンプ文が施される。47は高坏の坏部で、坏底部に稜をもつ。器台には口縁部が外反し、やや深めの受け部をもつ49や小型器台50～52がある。48は小型丸底壺で、胴部内面をケズリによって薄く仕上げ、外面全体と口縁部内面を赤彩し、丁寧なミガキ調整が施される。これらの土器は溝と考えられる遺構からの出土ではあるが、一固体に復元可能なものも多く、一括又はごく短期間のうちに廃棄されたものと考えられる。遺構を完掘し全ての遺物を取り上げてはいないため、器種構成等に不明な点を残すが、くの字状口縁甕が主体となり、布留系の甕や小型丸底壺、小型器台がセットとなることから、ほぼ古墳時代前期の高島式期に比定できよう。



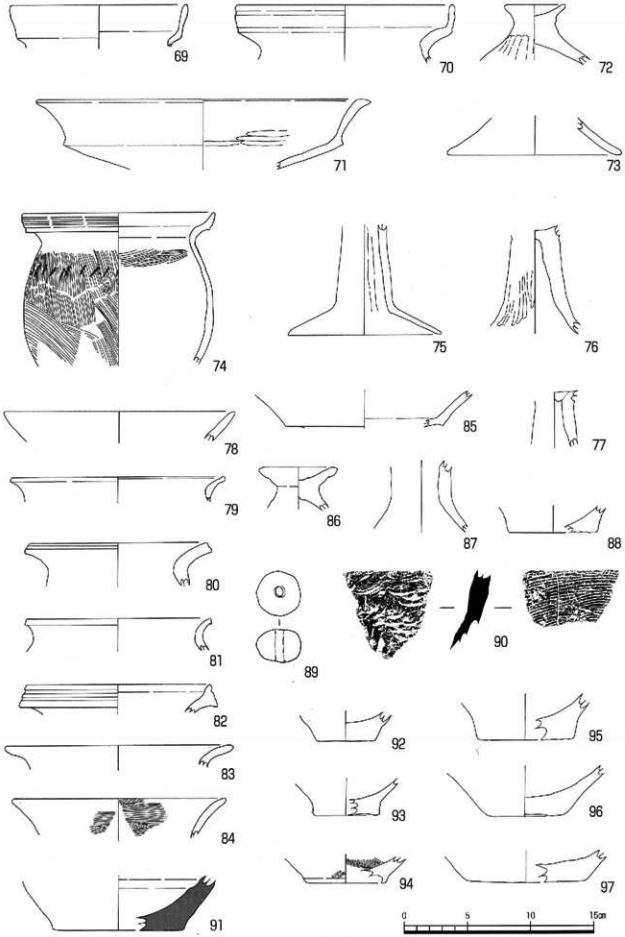
第４図　出土遺物実測図（１）（1/3）



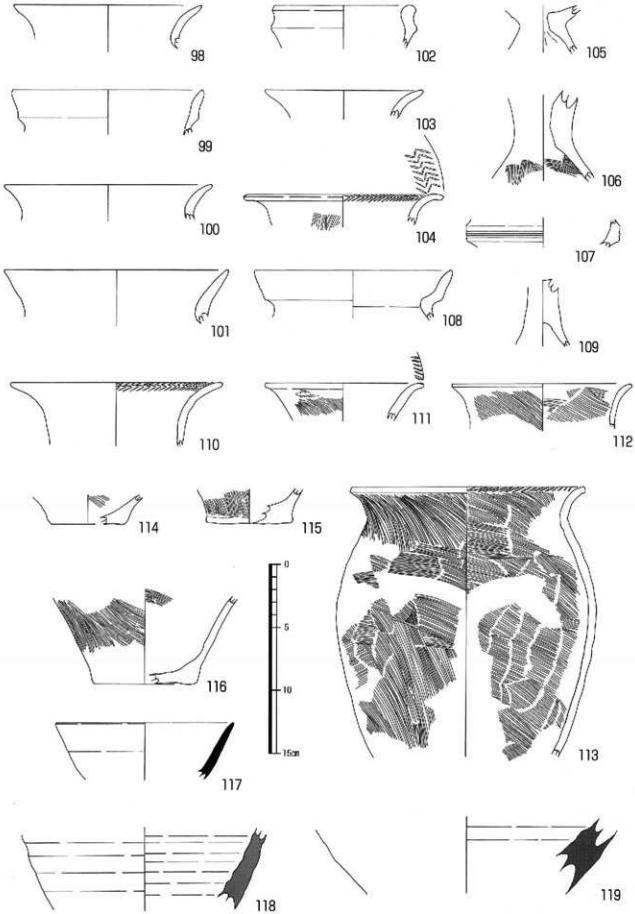
第5図　出土遺物実測図（2）（1/3）



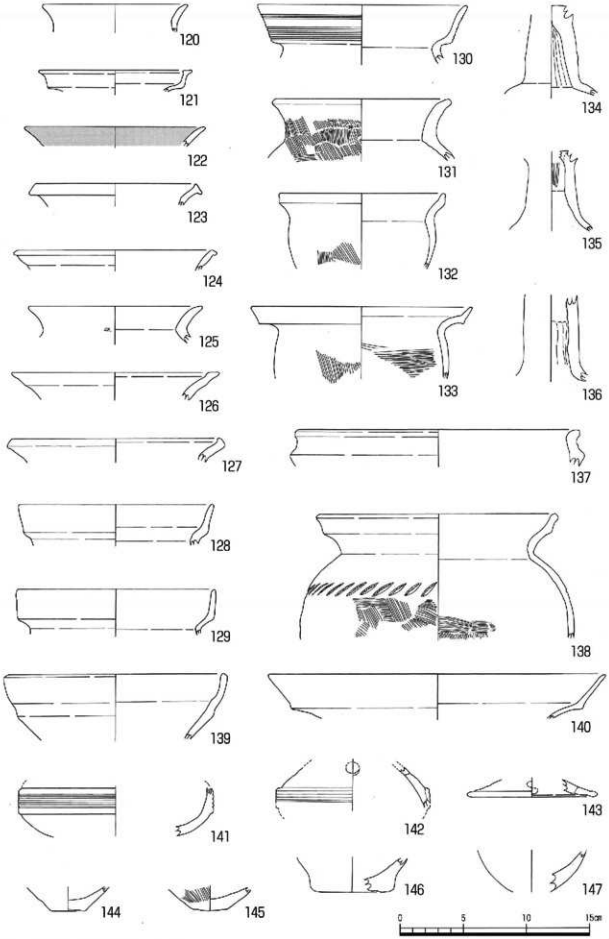
第6図　出土遺物実測図（3）（1/3）



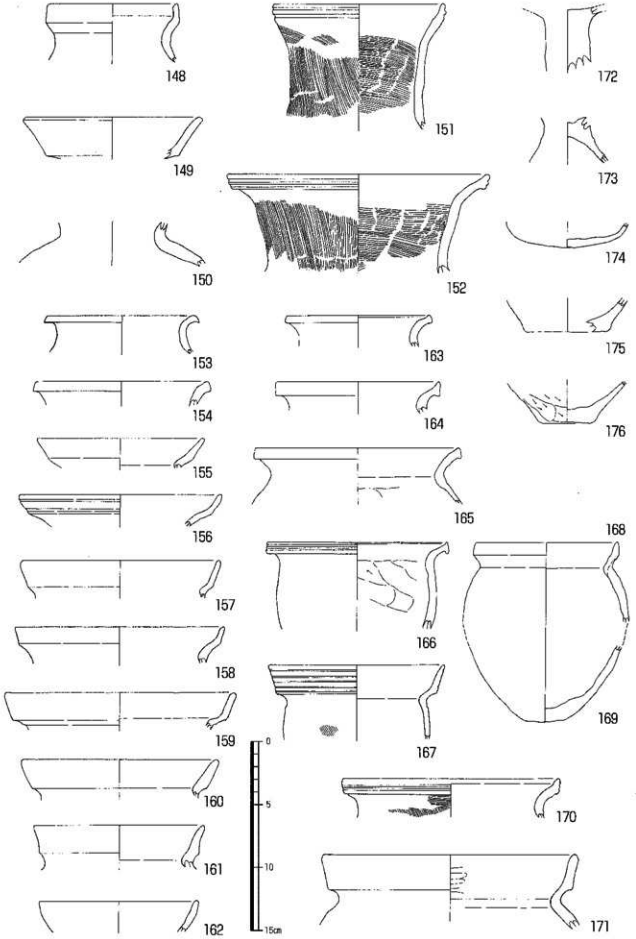
第７図　出土遺物実測図（４）（1/3）



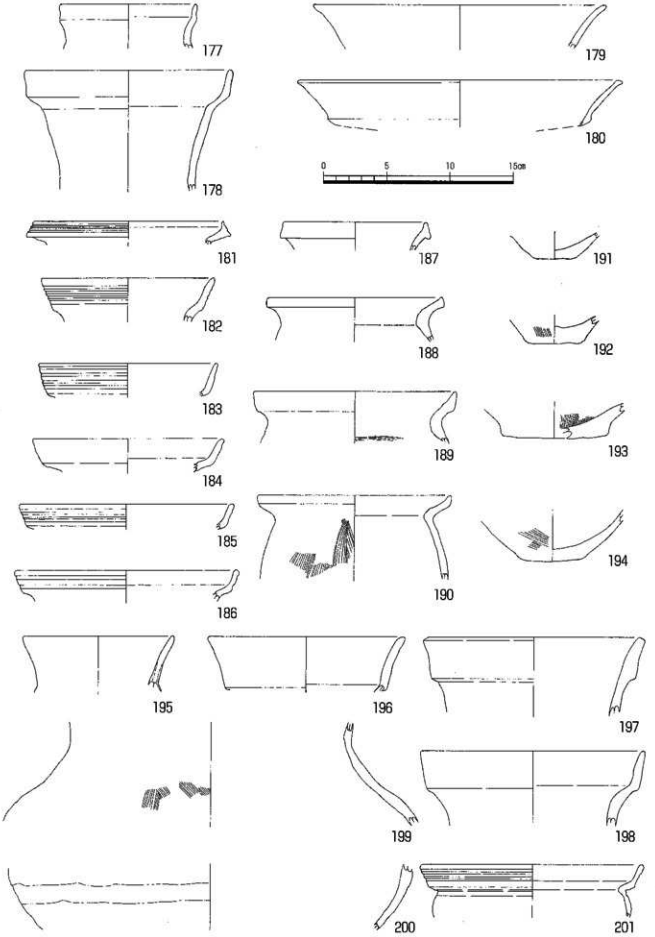
第8図　出土遺物実測図（5）（1/3）



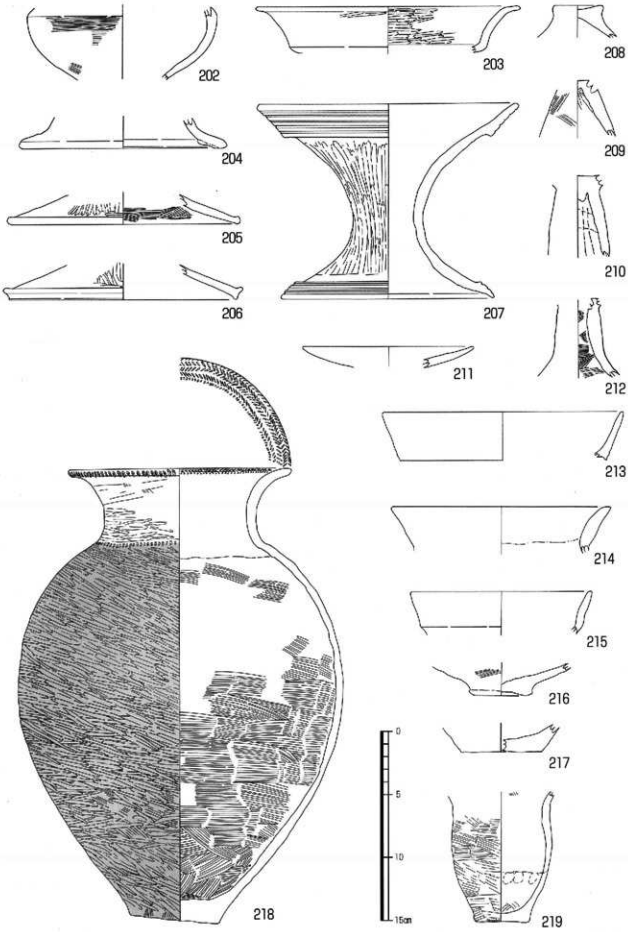
第９図　出土遺物実測図（６）（1/3）



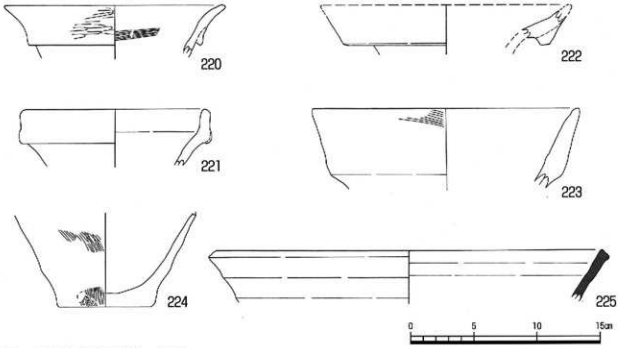
第10図　出土遺物実測図（7）（1/3）



第11図　出土遺物実測図（8）（1/3）



第12図　出土遺物実測図（9）（1/3）



第13図　出土遺物実測図（10）（1/3）

69～74はＴ－35周溝状遺構からの出土である。口縁端部を肥厚し面取を行う71の高坏や、幅の狭い有段口縁を持ち、肩部に斜行列点文を施す74の甕から、弥生時代後期後半の法仏式期に収まると考えられる。

75・78はＴ－35の自然流路からの出土で、75の裾部が屈曲する高坏から、高畠式期と考えられる。

98～106はＴ－50の溝からの出土である。弥生時代中期の甕104が１点含まれるが、ほぼ古墳時代前期の古府クルビ～高畠式期に比定できる。

153～180はＴ－54溝内からの出土である。甕類には、口縁端部を面取する能登系と考えられる154・163～165や、幅の狭い有段口縁に擬凹線を施す170、無文の158、幅の広い有段口縁に擬凹線を施す167や無文の157・159～161・171、付加状口縁に擬凹線を施す166、くの字状口縁と有段口縁の中間形態の168などがある。178は有段口縁の長頸壺。179・180は高坏で、口縁部のあまり発達しないタイプのものである。弥生時代終末期の月影式を中心とした時期に比定できる。

181～210はＴ－56落込みからの出土である。甕類はＴ－54溝内出土遺物に類似するが、幅が狭く内傾する口縁部に擬凹線を施す181や、幅の狭い有段口縁をもち、口縁端部を丸く収める185・186などやや古相を示すものが含まれる。195～198は壺の口縁部で、直行口縁の195や幅の広い有段口縁の196・198、幅広の有段口縁をもち頸部内面が屈曲しない197などがある。199・200は同一固体で、頸胴部の境が不明瞭で胴部から頸部にかけてゆるやかに立ち上がる大型の壺と考えられる。全体的に調整は粗く、外面に縦方向のハケ調整が確認でき、胴下部に接合痕が残る。203～207は高坏又は器台で、243は口縁部及び裾部に擬凹線を施し、強く湾曲した筒状の胴部をもつ。181・243などは、法仏Ⅰ式期に、197は月影～古府クルビ式期に比定でき、比較的広い時期幅をもつ。

その他、60・64・68、125・127・134がそれぞれＴ－35・54の遺構からの出土である。

包含層出土遺物は弥生時代後期～古墳時代前期のものが中心であるが、121の近江系受口状口縁甕や、口縁部に凹線を施す長頸壺151、幅の狭い有段口縁の広口壺152など、後期前半に比定できる土器もみられる。

古代の遺物（1・3・4・20・90・117）

今回の調査では古代の遺構は確認できなかった。遺物は全て須恵器で、包含層か耕作土からの出土である。

1・3・4・117は坏、20・90は甕又は壺の胴部である。出土量はごく僅かで、調査対象地の北側～西側にかけて散見できる程度である。T－2・23等では出土遺物の主体が古代となるが、それでも単独出土の数点のみにとどまる。

中世の遺物（2・5・21・22・91・118・119・225）

先述のとおり、中世の遺物は調査対象地のほぼ全域で採集することができるが、出土遺物は少ない。2・21・22・91・118・119・225は珠洲焼で、2は甕の口縁部、21・22・118・119は甕又は壺の胴部、91は擂鉢の底部である。5は中世土師器皿で、口縁部付近に煤が付着しており、灯明皿と考えられる。その他図示していないがT－34・39・49で青磁、T－42で瓦質土器の破片が出土している。

その他の遺物

89はT－49出土の土錘で、重量32gの小型品である。その他図示していないが、ヒスイ・緑色凝灰岩・鉄石英の原石が数点みられ、T－59では磨製石斧と考えられる石斧片が1点出土している。

Ⅲ　調査のまとめ

1　調査対象地の地形について（第14図）

高鳥A遺跡の所在する鏡宮・作道周辺は、もともと標高差の少ない沖積平野であり、特にほ場整備が進んでいる現在、一般の地形図に表示される等高線からは、比較的狭い範囲の地形を読み取ることは困難な状況下にある。このことは標高1m前後に位置する放生津潟周辺地域に共通して言えることでもあり、微高地上に遺跡（特に居住域等の生活の場）が立地するということが概念として理解できても、ほとんどその状況を把握することはできない。今回は試掘調査ということで、比較的広範囲を調査対象としたため、標高と遺構との関係について、何らかの情報が得られることを期待し、調査対象地の微地形復元を試みた。

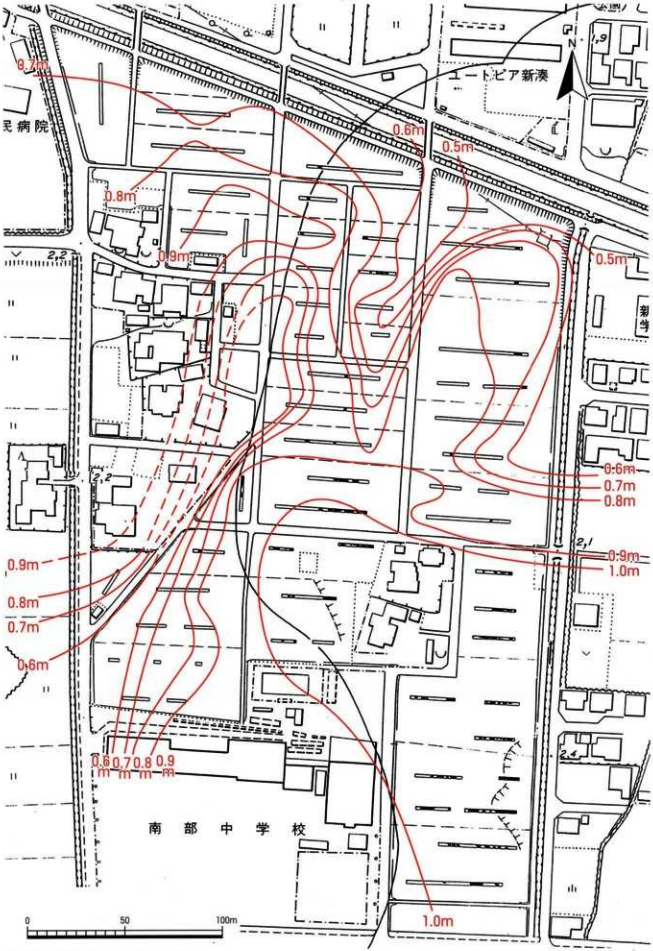
地形復元は、遺跡の中心となる弥生～古墳時代前期の遺構確認面であるⅣ層を対象とした。等高線の間隔は10cmとし、標高の測定値は10cm単位で四捨五入とした。

まず各トレンチの両端及び中央部の標高を測定し、地形の急な落ち込み等（遺構や自然流路等の急激な落ち込みは対象外としている）が確認できる場合にはその変化点を測定した。トレンチの一方から他方へかけて徐々に標高が変化してゆく場合には、各トレンチ内で10cmごとの変化点を抽出した。また隣接トレンチ間で10cm以上の標高差が生じる場合には、等高線の幅を均等割りとし、トレンチ外に標高点が位置すると予想できる場合には、周囲の状況をみて等高線を割り出している。なお標高の数値はあくまで現況のものであるということが大前提であり、測定場所によっては本来の地形が大きく改変されている状況であるため、地形復元による標高もあくまで参考値であることを付け加えておく。

地形復元の結果は第14図のとおりである。概観すると、南東部分は比較的フラットな地形で、北側に向かって徐々に標高が低くなり、南西～北東部にかけて調査対象地の中央を横切る形で、谷状の地形が入り込んでいる状況が確認できる。遺構との関係は以下のとおりである。

①　標高1.1～1.0mの範囲

南部中学校東側付近の場所が該当する。調査対象地内の遺構確認面では最も標高が高く、最高で約1.1mを測る。削平により遺物包含層の多くが消滅している範囲であるため、実際にはもう少し標高の高い部分が存在したと考えられる。遺構・遺物が集中する場所と重複し、T－60東端から南東約70mの地点に位置する、平成9年度本調査地区もおおよその範囲に含まれる。



第14図　調査対象地地形図（1/2,000）

② 標高1.0～0.9mの範囲

遺構数は減少するが、①の範囲周辺部では遺物包含層から一定量の遺物が出土している。

③ 標高0.9～0.8mの範囲

遺構・遺物共に希薄となり、確認できる遺構は溝のみとなる。

④ 標高0.8m以下の範囲

遺構は確認できない。遺物は弥生時代～古代頃のものが単独出土する程度である。

以上の点から、調査対象地内では南東～北西にかけて張り出した、周囲より僅かに標高の高い舌状の微高地上に遺構が集中していることが確認でき、弥生～古墳時代の居住適地が現在の標高でおよそ1.0m以上の場所であったと推定できる。周辺地域の例では、弥生時代中期の津幡江遺跡での遺構面が標高約1.1～1.0m。詳細は不明であるが弥生時代中期～古墳時代前期頃に属する、高岡市牧野地区内での遺構面が、上牧野新庄川遺跡庄川接岸住居址の標高約0.7～0.9mを除くと、標高約1.2～1.4mが中心となる。逆に標高約1.0m以下に目を向けると、市内において遺構面の標高が確認できる場所では、遺構は確認されておらず、過去に遺物出土が記録されている場所でも、確実な遺構の存在は確認できない。上牧野新庄川遺跡庄川接岸住居址は、残存状態が悪いうえに、十分な調査が行えなかったと報告されていることから（間坂 1966）、不確定要素が多く、また同遺跡では縄文時代後期～弥生時代の遺物も水面下から出土しているが、遺構は確認されていない。遺構確認面が標高約0.3mに位置する下村加茂遺跡でも、弥生時代前期の貯木場とされる自然河道が見つかっているが、直接居住域と判断できるような遺構は確認されていない。

次に遺構、特に居住域の存在を示す住居跡についてみると、高島A遺跡では、平成９年度の本調査で住居跡とされる周溝状遺構が確認されているが、この周溝状遺構は平地式建物に付随する周溝と考えられる。平地式建物は、竪穴式建物と異なり床面全体を掘り下げないため、低湿な環境下では防湿性において竪穴式建物に勝る。放生津潟縁辺部の低湿地に所在する、高島A遺跡の立地条件に適合した住居形態といえよう。

県内では、低湿地での発掘調査例が少なく比較対象には恵まれないが、丘陵地や台地上では竪穴式建物が主体となり、平野部では竪穴式建物もみられるが、平地式建物の割合が高くなるようである。ある程度形態を把握できる高岡市中曾根館遺跡・中曾根西遺跡で確認された住居址は、床面が周囲より高く、縁辺部に溝を持つことから（間坂1966）平地式建物、少なくとも竪穴式建物とはなり得ないと考えられるが、現状では低湿地に所在する遺跡として直接比較可能な例がほぼこの２例に限られるため、依然としてその状況は明らかではない。近県で類例を求めるとすれば、石川県小松市の八日市地方遺跡や、同羽咋市吉崎・次場遺跡などが代表的な例として挙げられる。前者は弥生時代前期～中期、後者は弥生時代前期～後期頃まで存続する大規模な集落遺跡であり、両遺跡共に潟周辺の低湿地に立地し、標高1.0m付近まで、掘立柱建物や平地式建物を主体とした居住域が確認されている。高島A遺跡同様、水稲耕作に適した低湿地に集落が所在し、平地式建物を主体としている点で、低湿な環境下に適合した住居形態を選択した好例と考えられる。

縄文時代晩期～弥生・古墳時代は気候の寒冷期にあたり、海水面が現在より２m前後低下していたことは、日本海側の地域においてほぼ共通すると考えられている（藤井1986）。そうすると現在の標高1.0m付近は、当時の標高で約３m前後に位置していたことになるが、先に挙げた例のとおり、低湿地の集落において平地式建物が主体となる点から、継続的な居住環境として、ある程度の標高と低湿な環境に適した住居形態を必要としたことは十分に考えられる。勿論これらの例のみからでは、低湿地帯での当時の居住適地の限界線が、現在の標高1.0m付近であったという結論には至らず、より標高の高い場所にも平地式建物は存在するし、扇状地などに立地する遺跡でも、地下水位の高低などによっては竪穴式建物に不適な場所もあるため、単純に標高差のみから比較することも適切ではない。しかし、逆に考えれば平地式建物を主体とすることで、標

高僅か1.0m前後という低湿地帯に極限まで近接し、大規模な集落形成を可能にしたとも考えられないだろうか。

今回行った地形復元は、後世の削平を受けた、現状の地形であるということが前提となっている。また時間的な制約もあり、資料の集成や検討も十分に行っていないため、遺漏や事実誤認もあるかもしれない。今後、比較検討の対象範囲を広げ、遺跡の時代や遺構・標高との関係に注意を払うことで、海水準変動に伴う局地的な地形の変化や遺跡の消長、時代判定等の手がかりとなる資料を充実させることが必要である。

2　調査のまとめ

調査の結果、高島A遺跡は弥生時代中期～古墳時代前期頃まで、集落の中心地を僅かに変化させながら存続し、古代以前には集落が廃絶していたことが明らかとなった。弥生時代中期については、本来は作道遺跡と同一の遺跡であったと考えられる。今回の調査では、遺構の性格まで把握することができなかったが、弥生時代中期の遺構・遺物が主に調査対象地の東端～南端部にかけて広がり、平成9年度本調査地区に続く可能性が高いため、付近に弥生時代中期後半頃の方形周溝墓を主体とした墓域が形成されている可能性がある。古墳時代前期以降に集落は廃絶するが、その背景には新たな政治勢力による集落の再編・統合や、気候の温暖化に伴う海水準の上昇や放生津潟の拡大などにより、居住環境が悪化していったためとも考えられる。周辺では古墳時代中期頃の遺跡は確認できず、古代には集落が塚原周辺や布目・高木、本江など、海岸部の砂丘付近や、内陸部に中心を移していったと考えられる。

現在、県内における低湿地での調査例は少なく、歴史の表舞台に立つことも少ない。ただし、隣県の石川県内では同様の環境下において、地域の拠点的な集落が存在することもまた事実である。高島A遺跡は、水稲耕作に適した低湿地に所在し、また潟湖と主要河川の結節地点という日本海を介した交通の要衝に位置するなど、恵まれた環境下にある。今後、周辺部に所在する同時期の遺跡も含め、より広域的な集落の広がりや消長の様子などが、調査の進展によって少しずつでも明らかにされてゆくことを期待したい。

参考文献

石川県立埋蔵文化財センター　1988　『吉崎・次場遺跡』

金沢市教育委員会　1996　『金沢市西念・南新保遺跡Ⅳ』

下村教育委員会　1999　『下村加茂遺跡発掘調査報告書』

新湊市教育委員会　2000　『高島A遺跡発掘調査概要』

新湊市立南部中学校郷土クラブ　1971　『古代遺跡中露出遺物拾得物内訳明細書』

高岡市教育委員会　1995　『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅵ』

高橋浩二　2000　「古墳出現期における越中の土器様相―弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編年的位置付け―」『庄内式土器研究ＸＸⅡ』　庄内式土器研究会

栃木英道　2000　「石川県（能登地域）における弥生時代終末期頃の土器編年」『東日本弥生時代後期の土器編年』　東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会編

藤井昭二　1986　「埋没林と海水準変動」　『季刊考古学第15号』　雄山閣

本江洋・吉久登・小島俊彰　1981　「新庄川遺跡出土遺物の紹介」　『大境第7号』　富山考古学会

岡坂義三郎　1966　「放生津潟西岸の牧野地区内古代遺跡」　『放生津潟周辺の地学的研究第三集』　富山地学会編

安　英樹　2001　「北陸における弥生時代の拠点集落について」　『石川県埋蔵文化財情報第6号』　財団法人石川県埋蔵文化財センター

谷内尾晉司　1983　「北加賀における古墳出現期の土器について」　『北陸の考古学』　石川考古学研究会

トレンチ番号	トレンチ延長(m)	検出遺構・時期	出土遺物	備考
T－1	31.9			
T－2	37.9		須恵器	
T－3	47.7			
T－4	49.3	近現代：溝	古墳時代土師器・珠洲焼・時期不明土師器片	
T－5	31.6		時期不明土師器片	遺物包含層消滅
T－6	23.7		時期不明土師器片	
T－7	19.4		時期不明土師器片	
T－8	19.8	近現代：溝		遺物包含層消滅
T－9	19.2	近現代：溝		遺物包含層消滅
T－10	18.3		珠洲焼	
T－11	17.5			
T－12	14.2		時期不明土師器片	
T－13	18.1	時期不明：溝	珠洲焼	
T－14	19.2	中世？：溝・土坑	古墳時代土師器・珠洲焼・中世土師器皿・時期不明土師器片	
T－15	18.1		時期不明土師器片	
T－16	9.6		珠洲焼	
T－17	37.5	時期不明：溝	古代須恵器・珠洲焼・越中瀬戸・時期不明土師器片	
T－18	42.2	時期不明：溝	時期不明土師器片	
T－19	45.1	弥生時代：溝 時期不明：溝	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・時期不明土師器片	
T－20	31.8	弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・中世土師器皿・鉄石英・鉄滓？・時期不明土師器片	遺構・遺物集中、遺物包含層消滅
T－21	47.4	古墳時代：溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－22	18.0	中世？：溝・土坑	珠洲焼・近世以降磁器・時期不明土師器片	
T－23	15.6	時期不明：溝	古代須恵器・時期不明土師器片	
T－24	14.6		古代須恵器・珠洲焼	
T－25	27.1			
T－26	15.2		時期不明土師器片	
T－27	15.6			
T－28	5.6			遺構面に到達せず
T－29	3.1		珠洲焼・時期不明土師器片	遺構面に到達せず
T－30	2.7			遺構面に到達せず
T－31	13.3			
T－32	9.8			
T－33	12.5	弥生時代：溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・緑色凝灰岩・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－34	18.0	弥生時代：溝・住居？・土坑 弥生～古墳時代：溝・土坑・柱穴	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・青磁・緑色凝灰岩・時期不明土師器片	遺構・遺物集中、遺物包含層消滅
T－35	28.5	弥生～古墳時代：自然河道 時期不明：溝	弥生土器・古墳時代土師器・古代須恵器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺物包含層消滅
T－36	12.7	時期不明：溝	珠洲焼・時期不明土師器片	遺物包含層消滅
T－37	10.9		時期不明土師器片	遺物包含層消滅
T－38	19.8			遺物包含層消滅
T－39	42.6	近現代：溝	中世土師器皿・青磁	
T－40	48.4	近現代：溝	珠洲焼・古銭（寛永通宝）・時期不明土師器片	
T－41	46.5	近現代：溝	時期不明砥石・時期不明土師器片	
T－42	16.4		珠洲焼・瓦質土器・時期不明土師器片	遺物包含層消滅

第1表　試掘トレンチ一覧表（1）

トレンチ番号	トレンチ延長(m)	検出遺構・時期	出土遺物	備考
T－43	23.1	近現代：溝	時期不明土師器片	遺物包含層消滅
T－44	46.1		珠洲焼	
T－45	31.3	時期不明：溝	珠洲焼・時期不明土師器片	
T－46	16.1		時期不明土師器片	
T－47	15.1		鉄滓？・時期不明土師器片	
T－48	43.9	時期不明：溝	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺物集中
T－49	18.5	弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・青磁・土錘・ヒスイ・時期不明土師器片	遺構・遺物集中、遺物包含層消滅
T－50	21.3	古墳時代：溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－51	21.5	弥生時代：土坑 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・時期不明土師器片	遺構・遺物集中、遺物包含層消滅
T－52	23.1	弥生時代：溝 弥生～古墳時代：溝	弥生土器・古墳時代土師器・古代須恵器・珠洲焼・緑色凝灰岩・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－53	17.3	弥生時代：溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・緑色凝灰岩・鉄石英・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－54	20.7	弥生時代：溝　　古墳時代：溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－55	24.2	弥生～古墳時代：溝	時期不明土師器片・近世以降陶器	遺構・遺物集中、遺物包含層消滅
T－56	10.7	弥生時代：落ち込み 弥生～古墳時代：溝	弥生土器・古墳時代土師器・越中瀬戸・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－57	17.8	弥生～古墳時代：溝	古墳時代土師器・時期不明土師器片	遺構・遺物集中、遺物包含層消滅
T－58	26.8	弥生時代：落ち込み・溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・磨製石斧・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－59	40.6	弥生～古墳時代：溝・土坑 中世：土坑	弥生土器・古墳時代土師器・古代須恵器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺構・遺物集中
T－60	50.1	弥生時代：溝 弥生～古墳時代：溝・土坑	弥生土器・古墳時代土師器・古代須恵器・珠洲焼・時期不明土師器片	遺構・遺物集中

※　弥生・古墳時代の遺構については、時期の判明するもの以外「弥生～古墳時代」として一括している。
※　穴状の遺構については、柱穴と判明するもの以外、規模の大小を問わず「土坑」として一括している。
※　溝状の遺構については、溝や自然流路と判断できないもの以外「落ち込み」として一括している。
※　「時期不明土師器片」の大部分は、弥生土器又は古墳時代の土師器と考えられる。

第2表　試掘トレンチ一覧表（2）

第3表　出土遺物観察表（1）

図版番号	器種	口径	底径	器高	調整・施文等		胎土	焼成	色調			出土ハンガ	出土状況等	備考
		長径	短径	孔径	外面	内面			胎土	外面	内面			
1	坏蓋				ロクロナデ	ロクロナデ	密	良	2.5Y8/1	N6/0	N6/0	17	耕作土	
2	甕				タタキ	ナデ	密	良	10YR6/1	5Y6/1	5Y6/1	17	耕作土	内面に茶褐色の付着物
3	坏		6.1		ロクロナデ	ロクロナデ	密	良	2.5Y7/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1	24	包含層	
4	坏		8.1		ロクロナデ	ロクロナデ	密	やや不良	2.5Y7/2	2.5Y6/2	2.5Y8/1	24	包含層	
5	皿	10.2			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	20	耕作土	非ロクロ成型、口縁部付近内外面煤付着
6	甕か壺		5.7		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y4/1	2.5Y7/3	2.5Y6/4	21	耕作土	
7	壺？		5.4		ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y6/1	5YR5/3	5YR6/4	19	耕作土	
8	壺？		9.6		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y6/1	2.5Y7/3	2.5Y5/1	21	包含層	
9	壺	12.6			ナデ	ナデ	密	良	10YR8/3	10YR6/3	10YR6/4	19	溝	
10	甕	16.6			ナデ・口縁部擬凹線4条	ハケ	密	良	2.5Y7/3	10YR7/3	10YR8/3	19	耕作土	
11	壺	14.6			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	20	耕作土	
12	甕	16.2			ナデ	ナデ	密	良	5YR7/4	7.5YR6/4	10YR7/4	20	耕作土	
13	甕	19.2			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y6/2	2.5Y7/3	2.5Y6/2	21	包含層	
14	甕	15.8			ナデ	ナデ	密	良	10YR6/2	10YR5/2	10YR5/2	21	包含層	
15	高坏				不明	ナデ・絞り痕	密	良	2.5Y5/1	10YR8/3	7.5YR7/4	4	耕作土	
16	高坏				不明	不明	密	良	10YR7/3	2.5Y8/3	2.5Y7/2	14	耕作土	
17	高坏				ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/2	5YR6/4	5YR7/6	20	耕作土	
18	高坏				ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/3	2.5Y6/2	2.5Y7/3	21	包含層	
19	高坏	14.9	13.7	12.0	ナデ？	ナデ？	密	良	10YR7/2	7.5Y7/4	10YR7/2	21	包含層	
20	甕か壺				タタキ	同心円当具痕	密	良	2.5Y7/1	7.5Y5/1	N7/0	2	包含層	外面に自然釉・粘土塊の溶着
21	甕か壺				タタキ10条/3㎝	ナデ	密	良	2.5Y7/1	2.5Y6/1	5Y6/1	14	耕作土	
22	甕か壺				タタキ10条/3㎝	ナデ	密	良	7.5YR6/1	5Y6/1	N7/0	17	耕作土	内面に茶褐色の付着物
23	甕	17.4			ナデ	ナデ	密	良	10YR8/2	10YR7/3	10YR8/2	21	包含層	
24	甕	14.6			ナデ	ナデ・口縁端部肥厚	密	良	10YR8/2	10YR7/3	10YR7/3	21	包含層	布留系？
25	甕	16.6			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/2	10YR8/2	10YR8/3	21	包含層	
26	甕	11.2			ナデ	ナデ	密	良	10YR8/3	10YR7/3	10YR7/3	21	包含層	
27	甕か壺	15.8			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/3	10YR8/4	10YR7/3	21	包含層	
28	台付鉢？		6.1		ハケ	ナデ	密	良	2.5Y2/1	2.5Y7/4	2.5Y3/1	21	包含層	
29	甕か壺		3.4		ナデ	ナデ	粗	やや不良	10YR7/3	5YR6/4	7.5YR7/4	21	包含層	
30	甕か壺		5.0		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y8/3	2.5Y8/3	2.5Y8/3	21	包含層	
31	壺		8.4		ナデ	ナデ	やや粗	やや不良	2.5Y6/1	10YR7/3	2.5Y7/1	21	包含層	
32	甕				ナデ	ナデ	やや粗	やや不良	7.5YR6/2	5YR6/6	5YR6/6	21	溝	
33	甕	14.6			ナデ	ハケ	密	良	10YR5/3	7.5YR6/4	10YR6/2	21	溝	口縁部外面煤付着
34	甕	15.8			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/3	7.5YR5/4	2.5Y7/3	21	溝	口縁部外面煤付着
35	甕	14.1			ナデ	ハケ	密	やや不良	10YR6/2	5YR7/4	10YR7/3	21	溝	

図版番号	器種	口径 長径	底径 短径	器高 孔径	調整・施文等 外面	調整・施文等 内面	胎土	焼成	色調 胎土	色調 外面	色調 内面	出土ﾋﾟｯﾄ	出土状況等	備考
36	甕	15.2			ハケ	ハケ	密	やや不良	10YR6/3	7.5YR6/4	10YR5/3	21	溝	器形歪み大きい、外面全体煤付着
37	甕	19.6			ハケ	ハケ	密	やや不良	10YR7/3	7.5YR6/4	7.5YR6/4	21	溝	口縁部外面煤付着
38	甕	20.8			ナデ	ハケ	密	やや不良	10YR8/3	7.5YR7/6	10YR7/3	21	溝	
39	甕	19.8			ナデ	ハケ	やや粗	やや不良	10YR7/3	7.5YR6/6	10YR7/3	21	溝	
40	甕	18.8			ナデ	ハケ	密	良	10YR7/3	7.5YR5/3	7.5YR6/4	21	溝	口縁部外面煤付着
41	甕	19.8			ハケ	ハケ	密	良	10YR7/3	10YR6/3	10YR6/4	21	溝	
42	甕		6.1		ハケ	ナデ	やや粗	やや不良	10YR6/2	5YR6/4	10YR7/4	21	溝	低部外面煤付着
43	甕		4.1		ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR7/3	10YR7/3	2.5YR6/1	21	溝	
44	甕				ナデ	ハケ	粗	やや不良	10YR7/2	10YR6/3	10YR6/2	21	溝	丸底、低部内面煤付着
45	有孔鉢				ケズリ・ハケ	ハケ	やや粗	良	10YR7/3	10YR6/4	10YR7/3	21	溝	
46	壺				ナデ・スタンプ文	ナデ	密	良	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	21	溝	二重口縁壺？
47	高坏				ミガキ？	ミガキ	密	良	10YR8/2	10YR6/4	10YR7/3	21	溝	
48	壺	11.0		10.6	ミガキ・赤彩	ケズリ・ミガキ・赤彩	密	良	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	21	溝	小型丸底壺、赤彩部分2.5YR5/6
49	器台	16.5			ミガキ	ミガキ	やや粗	良	10YR8/4	10YR7/4	10YR7/4	21	溝	坏部穿孔４箇所
50	器台	8.6	11.8	8.0	ミガキ？	ミガキ？	密	良	10YR7/2	10YR7/4	10YR7/4	21	溝	脚部穿孔３箇所
51	器台	10.1	11.8	9.4	ミガキ	ミガキ	密	良	10YR6/1	10YR6/4	10YR6/4	21	溝	
52	器台	9.4	11.2	9.5	ナデ？	ハケ	密	やや不良	10YR7/2	7.5YR6/4	5YR6/6	21	溝	脚部穿孔３箇所
53	甕	12.2			ハケ	ナデ	粗	不良	7.5YR7/4	5YR6/6	7.5YR7/4	21	溝	調整粗く、内面の粘土紐接合痕明瞭に残る
54	甕	18.0			ハケ	ケズリ・口縁端部肥厚	密	良	10YR7/4	10YR7/4	10YR6/4	21	溝	布留系
55	甕	18.2			ハケ	ケズリ・口縁端部肥厚	密	良	2.5Y7/2	10YR7/4	10YR7/3	21	溝	布留系
56	甕	20.6			ハケ	ハケ・口縁部ヘラ状具によるキザミ・口縁端部面取	密	良	2.5Y6/2	10YR6/2	10YR5/3	33	溝	口縁部内外面煤付着
57	甕	21.6			ハケ	ハケ	やや粗	良	10YR6/2	10YR6/2	10YR7/3	34	土坑	
58	甕	18.4			ナデ・口縁端部面取	ナデ	密	良	10YR8/1	10YR7/1	10YR7/1	34	土坑	口縁部外面煤付着
59	壺	12.4			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y5/2	10YR5/3	10YR7/4	33	包含層	
60	壺	10.1			ハケ	ハケ	密	良	10YR7/3	10YR7/3	10YR8/3	34	土坑	
61	甕	15.8			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/1	2.5Y3/1	2.5Y8/3	34	包含層	
62	甕	12.8			ナデ	ナデ	密	良	10YR6/1	10YR7/3	10YR7/3	34	土坑	
63	甕	9.9			ハケ	ハケ	密	良	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/3	34	包含層	
64	不明	10.4			ミガキ	ナデ	密	良	10YR7/4	10YR5/2	7.5YR6/3	34	土坑	口縁部外面煤付着
65	蓋	5.0			ナデ	ナデ	密	良	10YR8/1	10YR7/4	7.5YR7/4	34	土坑	
66	甕か壺		4.4		ハケ	ナデ	密	良	2.5Y4/1	2.5Y7/2	10YR8/2	34	土坑	
67	壺か壺		6.5		ナデ	ナデ	密	良	7.5YR7/4	7.5YR5/6	7.5YR6/6	34	包含層	
68	高坏		19.0		稜端部凸帯貼り付け	不明	密	良	10YR7/3	10YR7/2	10YR7/3	34	土坑	穿孔は３～４個所
69	甕	14.2			ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR4/1	5YR7/4	10YR7/1	34	溝	

図版番号	器種	口径 長径	底径 短径	器高 孔径	調整・施文等 外面	調整・施文等 内面	胎土	焼成	色調 胎土	色調 外面	色調 内面	出土ハンガ	出土状況等	備考
70	甕	17.6			不明	不明	粗	良	10YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4	34	溝	
71	高坏	26.8			ミガキ？	ミガキ	密	良	2.5Y8/2	5YR6/4	10YR7/3	34	溝	
72	蓋	4.8			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y3/1	10YR6/3	10YR7/4	34	溝	
73	蓋		15.9		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y6/1	10YR6/3	10YR6/3	34	溝	
74	甕	15.6			ハケ・口縁部擬凹線４条・肩部斜行刺突文	ハケ	やや粗	良	10YR7/1	10YR5/2	10YR5/2	34	溝	外面全体煤付着
75	高坏		11.6		ミガキ？	ナデ	密	良	2.5Y8/2	10YR6/4	2.5Y5/2	35	溝	
76	高坏				ミガキ	ナデ	密	良	5YR6/3	10YR6/4	2.5Y6/3	35	耕作土	
77	高坏				ミガキ？	ナデ	やや粗	良	2.5Y5/1	2.5Y7/2	2.5Y7/3	35	耕作土	
78	甕	18.0			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/2	10YR6/3	2.5Y7/2	35	溝	口縁部外面煤付着
79	甕	16.8			ナデ・口縁端部面取	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/1	2.5Y8/2	2.5Y8/2	48	包含層	
80	壺	14.2			ナデ・口縁端部面取、凹線１条	ナデ	やや粗	良	2.5Y8/2	2.5Y6/3	2.5Y8/3	47	包含層	
81	甕	14.3			ナデ・口縁端部面取	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/1	10YR7/3	2.5Y4/1	49	耕作土	
82	甕	14.5			ナデ・口縁部凹線２条	ナデ	密	良	2.5Y7/2	2.5Y7/3	10YR8/3	49	耕作土	
83	甕	17.6			ナデ	ナデ	密	良	10YR6/3	10YR6/3	10YR7/3	49	耕作土	
84	甕	16.6			ハケ	ハケ	密	良	2.5Y7/3	10YR7/4	2.5Y7/3	49	耕作土	
85	高坏				ミガキ？	ミガキ？	密	良	2.5Y5/2	10YR8/3	10YR8/3	48	包含層	
86	蓋	5.3			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/2	2.5Y7/3	2.5Y7/3	49	耕作土	
87	器台				ミガキ？	ナデ	密	良	2.5Y5/1	2.5Y7/2	2.5Y8/3	49	耕作土	
88	壺		7.0		ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y5/1	5YR6/6	10YR7/3	35	包含層	
89	土錘	3.5	2.6	0.7	ナデ	ナデ	やや粗	良		2.5Y7/2	2.5Y7/2	49	耕作土	重量32g
90	甕か壺				タタキ	同心円当具痕	密	良	10YR7/2	2.5Y7/1	2.5Y6/1	35	耕作土	
91	擂鉢		10.2		ナデ（卸目？）	ナデ	密	やや不良	2.5Y7/1	2.5Y8/1	2.5Y6/1	49	耕作土	
92	甕か壺		4.6		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y6/1	2.5Y6/1	2.5Y3/1	48	包含層	
93	甕か壺		5.2		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y4/1	5YR5/2	5YR5/3	48	包含層	
94	甕か壺		6.4		ハケ	ハケ	密	良	2.5Y5/2	2.5Y3/2	2.5Y7/2	49	耕作土	
95	壺		7.8		ナデ	ナデ	やや粗	やや不良	2.5Y6/2	10YR7/3	2.5Y7/2	49	耕作土	
96	甕か壺		6.6		ナデ	ナデ	密	良	10YR7/4	10YR6/4	10YR6/4	48	包含層	
97	甕か壺		9.6		ナデ	ナデ	密	良	10YR7/2	10YR7/3	2.5Y5/1	48	包含層	
98	甕	14.9			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/3	10YR7/3	2.5Y6/2	50	溝	
99	甕	15.0			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y3/1	2.5Y3/1	2.5Y7/2	50	溝	
100	壺	15.5			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/3	7.5YR7/3	10YR7/3	50	溝	
101	甕	17.6			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/4	50	溝	
102	壺？	10.2			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y8/2	10YR7/3	10YR7/3	50	溝	

第6表　出土遺物観察表（4）

図版番号	器種	口径 長径	底径 短径	器高 孔径	調整・施文等 外面	調整・施文等 内面	胎土	焼成	色調 胎土	色調 外面	色調 内面	出土N/分	出土状況等	備考
103	甕	12.3			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/2	10YR7/2	10YR7/2	50	溝	
104	甕	15.0			ハケ	ナデ・口縁部櫛状具による羽状文	やや粗	やや不良	10YR4/1	10YR6/3	10YR7/3	50	溝	
105	器台				ナデ	ナデ・絞り痕	密	良	2.5Y7/3	2.5Y7/3	2.5Y7/3	50	溝	
106	器台				ハケ	ハケ	粗	良	2.5Y7/2	2.5Y5/2	2.5Y4/1	50	溝	
107	壺				突帯上擬凹線２条	ナデ	密	良	2.5Y7/3	2.5Y7/3	2.5Y6/3	50	包含層	細頸壺？、胴部最大径12.2cm
108	甕	15.4			ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR8/2	2.5Y7/3	10YR8/2	52	溝	
109	高坏				不明	不明	密	良	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	53	包含層	脚部は中空とならない
110	壺	16.8			ハケ	ナデ・口縁部櫛状具による羽状文	密	良	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	51	土坑	
111	壺	12.2			ハケ	ナデ・口縁端部櫛状具によるキザミ	密	良	10YR8/4	10YR6/4	10YR7/4	51	土坑	
112	甕	14.1			ハケ	ハケ	密	やや不良	10YR5/2	10YR5/4	10YR5/3	53	溝	外面全体煤付着
113	甕	18.6			ハケ・口縁端部面取	ハケ・口縁部櫛状具による斜行刺突文	密	良	10YR5/2	10YR5/3	10YR6/2	53	溝	外面全体煤付着
114	甕か壺		5.6		ナデ	ハケ	密	良	2.5Y7/2	2.5Y7/2	2.5Y7/3	52	耕作土	
115	壺？		6.8		ハケ	ナデ	密	良	2.5Y6/2	10YR6/3	2.5Y6/2	53	包含層	内外面煤付着
116	壺		8.4		ハケ	ハケ	密	良	10YR6/2	10YR7/4	2.5Y6/2	53	溝	
117	坏	14.0			ロクロナデ	ロクロナデ	密	良	7.5YR6/1	N4/0	7.5Y6/1	52	耕作土	
118	甕か壺				ナデ	ナデ	密	良	10YR6/1	N6/0	N7/0	52	耕作土	
119	甕か壺				ナデ	ナデ	密	良	7.5YR6/1	2.5Y6/1	N5/0	53	耕作土	
120	甕	11.2			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/3	10YR6/4	2.5Y6/3	54	包含層	
121	甕	12.2			ナデ・口縁端部面取	ナデ	密	良	2.5Y5/1	2.5Y6/2	2.5Y6/2	54	耕作土	受口状口縁、口縁部外面煤付着
122	高坏？	14.2			ミガキ？・赤彩	ミガキ？・赤彩	密	良	2.5Y7/3	10YR7/3	2.5Y7/6	54	耕作土	赤彩部分2.5YR5/4
123	甕？	12.8			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/2	10YR5/4	2.5Y6/1	54	包含層	
124	甕	15.2			ナデ？	ナデ？	密	良	10YR5/2	10YR5/2	10YR6/3	54	耕作土	
125	甕	15.6			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	2.5Y7/4	54	溝	
126	甕	16.4			ナデ	ナデ・口縁端部肥厚	密	良	2.5Y8/3	10YR7/3	2.5Y8/3	54	耕作土	
127	甕	16.4			ナデ	ナデ・口縁端部肥厚	密	良	2.5Y6/2	7.5YR7/4	10YR7/3	54	溝	布留系？
128	甕	15.2			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y5/1	2.5Y6/2	2.5Y7/4	54	包含層	
129	甕	15.6			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y5/1	10YR7/4	2.5Y7/3	54	包含層	
130	甕？	16.4			ナデ・口縁部擬凹線６条以上	ナデ	密	良	2.5Y4/1	2.5Y3/1	2.5Y5/2	54	包含層	
131	甕	13.6			ハケ・口縁端部面取	ナデ	密	良	2.5Y5/1	10YR7/2	2.5Y7/2	54	溝	
132	甕	13.4			ハケ	ナデ	密	良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	10YR6/2	54	耕作土	

第7表　出土遺物観察表（5）

図版番号	器種	口径 長径	底径 短径	器高 孔径	調整・施文等 外面	調整・施文等 内面	胎土	焼成	色調 胎土	色調 外面	色調 内面	出土ﾊﾝﾀｲ	出土状況等	備考
133	甕	17.4			ハケ	ハケ	密	良	2.5Y5/1	10YR6/3	10YR7/3	54	耕作土	
134	高坏				不明	しぼり痕	密	良	2.5Y6/2	2.5Y5/3	2.5Y6/3	54	溝	
135	高坏				ナデ	ナデ	密	良	5Y4/1	2.5Y7/4	7.5YR7/4	54	包含層	
136	高坏				ナデ	ナデ	やや粗	やや不良	2.5Y6/1	2.5YR6/8	2.5YR6/8	54	耕作土	
137	壷	21.8			ナデ?	ナデ?	やや粗	良	2.5Y6/1	10YR8/3	10YR8/3	54	耕作土	
138	甕	18.8			ハケ・胴部斜行刺突文	ハケ	密	良	2.5Y6/1	7.5YR7/4	7.5YR7/4	54	耕作土	
139	鉢	17.0			ナデ	ナデ	密	やや不良	2.5Y3/1	2.5Y3/1	2.5Y7/2	54	包含層	
140	器台？	26.6			不明	不明	密	良	2.5Y5/1	10YR6/3	2.5Y5/1	54	包含層	
141	壺				突帯上擬凹線４条	ナデ	密	良	2.5Y6/3	2.5Y7/1	2.5Y6/2	54	包含層	細頸壺？、胴部最大径15.5cm
142	壺				突帯上擬凹線２条	ナデ?	密	良	2.5Y6/1	2.5Y6/1	5YR6/4	54	耕作土	細頸壺？、胴部最大径12.2cm、穿孔数不明
143	高坏？		9.6		ミガキ？・赤彩	ナデ	密	良	2.5Y5/1	10YR7/3	10YR7/3	54	耕作土	穿孔数不明、赤彩部分2.5YR5/4
144	甕か壺		3.0		ナデ	ナデ	やや粗	やや不良	2.5Y6/1	2.5Y7/3	2.5Y7/4	54	包含層	
145	甕か壺		2.8		ハケ	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/2	2.5Y6/2	2.5Y7/3	54	耕作土	
146	甕か壺		6.6		ナデ?	ナデ?	密	良	2.5Y6/2	2.5Y7/3	2.5Y5/1	54	包含層	
147	甕				不明	不明	やや粗	やや不良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	2.5Y8/3	54	包含層	低部丸底か
148	壺	10.1			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	54	包含層	
149	壺	13.8			ナデ・口縁端部面取	ナデ	密	良	2.5Y6/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	54	包含層	
150	壺				不明	不明	やや粗	良	2.5Y7/1	2.5Y4/1	2.5Y6/2	54	包含層	
151	壺	13.2			ハケ・口縁部凹線２条	ハケ	密	良	2.5Y5/1	10YR7/3	7.5YR7/3	54	耕作土	
152	壺	20.4			ハケ・口縁部疑凹線２条	ハケ	密	良	2.5Y6/1	2.5Y5/2	10YR6/3	54	耕作土	
153	甕	12.4			ナデ・口縁端部面取	ナデ	粗	良	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/3	54	溝	
154	甕	13.8			ナデ・口縁端部面取	ナデ	粗	良	2.5Y8/3	2.5Y8/3	2.5Y8/3	54	溝	
155	甕	13.1			ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y8/3	2.5Y7/3	2.5Y8/3	54	溝	
156	甕	16.2			ナデ	ナデ	密	良	10YR7/3	2.5Y3/1	10YR7/3	54	溝	
157	甕	15.8			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/3	2.5Y7/3	2.5Y7/3	54	溝	
158	甕	16.6			ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y7/2	2.5Y8/2	2.5Y7/2	54	溝	
159	甕	18.4			ナデ?	ナデ?	粗	良	2.5Y5/1	10YR6/2	10YR7/3	54	溝	
160	甕	15.4			ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR5/1	10YR7/3	10YR5/2	54	溝	頸部外面煤付着
161	甕	13.7			ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR5/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	54	溝	
162	甕	12.4			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y8/3	2.5Y8/3	2.5Y7/3	54	溝	
163	甕	11.2			ナデ・口縁端部面取	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/3	2.5Y7/3	2.5Y8/3	54	溝	
164	甕	13.1			ナデ・口縁端部面取	ナデ	やや粗	良	10YR5/1	10YR7/4	10YR7/4	54	溝	
165	甕	16.2			ナデ・口縁端部面取	ナデ	粗	良	2.5Y4/1	10YR7/2	10YR8/2	54	溝	
166	甕	14.4			ナデ・口縁部擬凹線２条	ケズリ	やや粗	良	2.5Y6/1	10YR7/2	10YR7/2	54	溝	外面口縁部～頸部煤付着
167	甕	13.9			ハケ・口縁部擬凹線４条	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/2	10YR6/2	2.5Y7/3	54	溝	外面全体煤付着

第8表　出土遺物観察表（6）

図版番号	器種	口径 長径	底径 短径	器高 孔径	調整・施文等 外面	調整・施文等 内面	胎土	焼成	色調 胎土	色調 外面	色調 内面	出土ハンプ	出土状況等	備考
168	甕	11.3			ナデ？	ナデ？	粗	良	2.5Y5/1	10YR7/4	2.5Y6/2	54	溝	169と同一固体
169	甕		3.1		ナデ？	ナデ？	粗	良	2.5Y5/1	2.5Y7/2	2.5Y6/2	54	溝	168と同一固体
170	甕	17.2			ハケ・口縁部擬凹線２条	ナデ	密	良	10YR7/4	10YR7/4	10YR6/3	54	溝	外面口縁部～頸部煤付着
171	甕	20.1			不明	ミガキ？	密	良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	2.5Y6/2	54	溝	
172	高坏？				ナデ	ナデ	密	良	2.5Y8/2	2.5Y8/2	2.5Y8/2	54	溝	脚部は中空とならない
173	高坏				不明	不明	密	良	2.5Y4/1	2.5Y8/2	2.5Y7/2	54	溝	
174	壺		1.1		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/2	10YR7/4	10YR7/3	54	溝	
175	甕か壺		6.2		ナデ	ナデ	密	良	2.5Y6/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	54	溝	
176	甕か壺		4.4		ケズリ	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/2	2.5Y7/2	2.5Y7/2	54	溝	
177	壺	11.0			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y5/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	54	溝	
178	壺	16.8			不明	不明	密	良	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	54	溝	
179	高坏？	23.4			ナデ？	ナデ？	密	良	10YR7/3	10YR7/3	2.5Y7/2	54	溝	
180	高坏	25.1			不明	不明	密	良	10YR6/2	5YR6/6	5YR6/6	54	溝	
181	甕	15.0			ナデ・口縁部擬凹線３条	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/4	2.5Y7/4	2.5Y7/4	56	落込み	
182	壺？	13.8			ナデ・口縁部擬凹線４条	ナデ？	やや粗	良	2.5Y4/1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	56	落込み	
183	甕	14.2			ナデ・口縁部擬凹線４条	ナデ	密	良	2.5Y8/4	7.5YR7/6	2.5Y7/3	56	落込み	
184	甕	15.0			ナデ	ナデ	やや粗	不良	2.5Y5/1	2.5Y8/2	2.5Y7/3	56	落込み	
185	甕	16.8			ナデ・口縁部擬凹線３条	ナデ	密	良	2.5Y4/1	7.5YR7/4	2.5Y3/1	56	落込み	
186	甕	17.5			ナデ・口縁部擬凹線２条	ナデ	密	良	7.5YR7/6	10YR7/4	10YR6/4	56	落込み	
187	甕	11.2			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y5/1	10YR7/3	10YR7/3	56	落込み	口縁部擬凹線か
188	甕	13.6			ナデ？・口縁端部面取	ナデ？	密	良	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/3	56	落込み	
189	鉢	15.8			ナデ？	ハケ	粗	やや不良	2.5Y7/2	5YR6/6	10YR7/3	56	落込み	
190	甕	15.2			ハケ	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/1	2.5Y3/1	10YR7/4	56	落込み	外面全体煤付着
191	甕か壺		2.9		ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y7/4	2.5Y7/4	2.5Y7/4	56	落込み	
192	甕か壺		4.2		ハケ	ナデ	密	良	2.5Y6/2	2.5Y4/1	2.5Y6/2	56	落込み	外面煤付着
193	壺？		8.2		ナデ	ハケ	やや粗	やや不良	10YR6/2	2.5YR6/8	10YR5/2	56	落込み	
194	甕か壺		4.2		ハケ	ナデ	やや粗	良	5YR7/6	2.5Y7/3	10YR6/2	56	落込み	
195	壺	11.9			ナデ？	ナデ？	密	良	10YR7/3	10YR7/3	2.5Y7/4	56	落込み	
196	壺	15.2			不明	不明	やや粗	良	2.5Y6/2	2.5Y7/3	2.5Y6/2	56	落込み	
197	壺	16.8			口縁端部面取	不明	やや粗	良	2.5Y6/2	2.5Y8/2	2.5Y7/3	56	落込み	
198	壺	17.8			ナデ	ナデ	密	密	2.5Y4/1	2.5Y7/2	2.5Y7/2	56	落込み	
199	壺？				ハケ	ナデ	やや粗	不良	10YR7/3	2.5Y4/1	10YR7/3	56	落込み	200と同一固体
200	壺？				ナデ	ナデ	粗	不良	10YR7/2	2.5Y4/1	5YR6/4	56	落込み	199と同一固体、外面に接合痕残る
201	鉢	17.4			ナデ・口縁部擬凹線	ナデ？	密	良	2.5Y5/1	7.5YR7/4	2.5Y3/1	56	落込み	擬凹線４条か
202	壺？				ハケ	ナデ	密	やや不良	7.5YR8/4	7.5YR7/6	5YR6/6	56	落込み	

図版番号	器種	口径	底径	器高	調整・施文等		胎土	焼成	色調			出土ﾚﾍﾞﾙ	出土状況等	備考
		長径	短径	孔径	外面	内面			胎土	外面	内面			
203	高坏	20.8			ミガキ	ミガキ	やや粗	良	10YR7/4	10YR6/3	10YR6/3	56	落込み	
204	高坏？		14.6		不明	不明	密	やや不良	10YR8/3	10YR7/3	10YR8/3	56	落込み	
205	器台？		18.6		ミガキ	ハケ	密	良	10YR7/4	10YR7/3	10YR7/3	56	落込み	穿孔の有無不明
206	器台？		18.2		ミガキ	不明	密	良	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/4	56	落込み	
207	器台	20.4	15.6	15.4	ミガキ・口縁部擬凹線5条・底部擬凹線3条	ミガキ？	やや粗	やや不良	5YR6/6	2.5Y6/3	2.5Y6/3	56	落込み	
208	蓋	5.6			ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR6/2	2.5Y7/4	2.5Y6/2	56	落込み	
209	高坏				ハケ	ナデ	密	良	10YR8/2	10YR7/4	10YR7/4	56	落込み	
210	高坏				ナデ	ナデ	密	良	10YR7/3	10YR6/3	10YR5/2	56	落込み	
211	器台？	13.4			ミガキ？	ナデ	密	良	10YR6/2	10YR6/3	10YR6/2	59	溝	
212	高坏				ナデ	ハケ？	密	良	2.5Y6/3	2.5Y7/4	10YR5/4	58	包含層	
213	壺	18.8			ナデ・口縁部擬凹線？	ナデ	密	良	10YR8/4	10YR8/4	10YR8/4	58	包含層	
214	甕	17.2			ナデ	ナデ	密	良	10YR6/3	10YR7/3	10YR7/3	59	溝	
215	甕	14.4			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/3	10YR6/4	10YR7/3	58	包含層	外面煤付着
216	壺		5.1		ハケ	ナデ	密	良	2.5Y6/2	2.5Y7/3	2.5Y6/2	58	包含層	
217	甕？		6.5		ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y4/1	7.5YR6/4	2.5Y4/1	58	包含層	
218	壺	17.4	7.1	36.1	ハケ・ミガキ・頸部刺突文・口縁端部擬状具によるキザミ・赤彩	ハケ・口縁部擬状具による羽状文	密	良	2.5Y7/3	2.5Y7/4	2.5Y7/3	58	落込み	赤彩部分2.5YR5/8
219	甕		4.2		ハケ	ハケ・指頭圧痕	密	良	10YR7/3	10YR5/3	10YR6/2	58	落込み	内面に粘土紐接合痕残る
220	壺	17.2			ミガキ	ハケ	密	良	2.5Y4/1	2.5Y6/3	2.5Y6/2	57	包含層	
221	壺	14.4			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y6/1	2.5Y6/3	2.5Y7/3	59	耕作土	
222	壺				ナデ	ナデ	密	良	7.5YR7/4	10YR7/3	10YR7/4	58	包含層	
223	壺	20.8			ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y4/1	10YR7/4	2.5Y7/3	59	包含層	
224	壺？		7.2		ハケ	ハケ	密	良	7.5YR6/6	10YR7/3	10YR7/3	60	溝	
225	擂鉢	30.6			ナデ	ナデ	密	良	2.5Y7/1	2.5Y6/1	2.5Y7/1	59	土坑	

（単位：cm）

【色調表記詳細】

2.5YR　6/8：橙色　5/4：にぶい赤褐色　5/6：明赤褐色　5/8：明赤褐色

5YR　7/4：にぶい橙色　7/6：橙色　6/3：にぶい橙色　6/4：にぶい橙色　6/6：橙色　5/2：灰褐色　5/3：にぶい赤褐色

7.5YR　8/4：浅黄橙色　7/3：にぶい橙色　7/4：にぶい橙色　7/6：橙色　6/1：褐灰色　6/3：にぶい褐色　6/4：にぶい橙色　6/6：橙色　5/3：にぶい褐色　5/4：にぶい褐色

10YR　8/1：灰白色　8/2：灰白色　8/3：浅黄橙色　8/4：浅黄橙色　7/1：灰白色　7/2：にぶい黄橙色　7/3：にぶい黄橙色　7/4：にぶい黄橙色　6/1：褐灰色　6/2：灰黄褐色　6/3：にぶい黄橙色　6/4：にぶい黄橙色　5/1：褐灰色　5/2：灰黄褐色　5/3：にぶい黄褐色　5/4：にぶい黄褐色　4/1：褐灰色

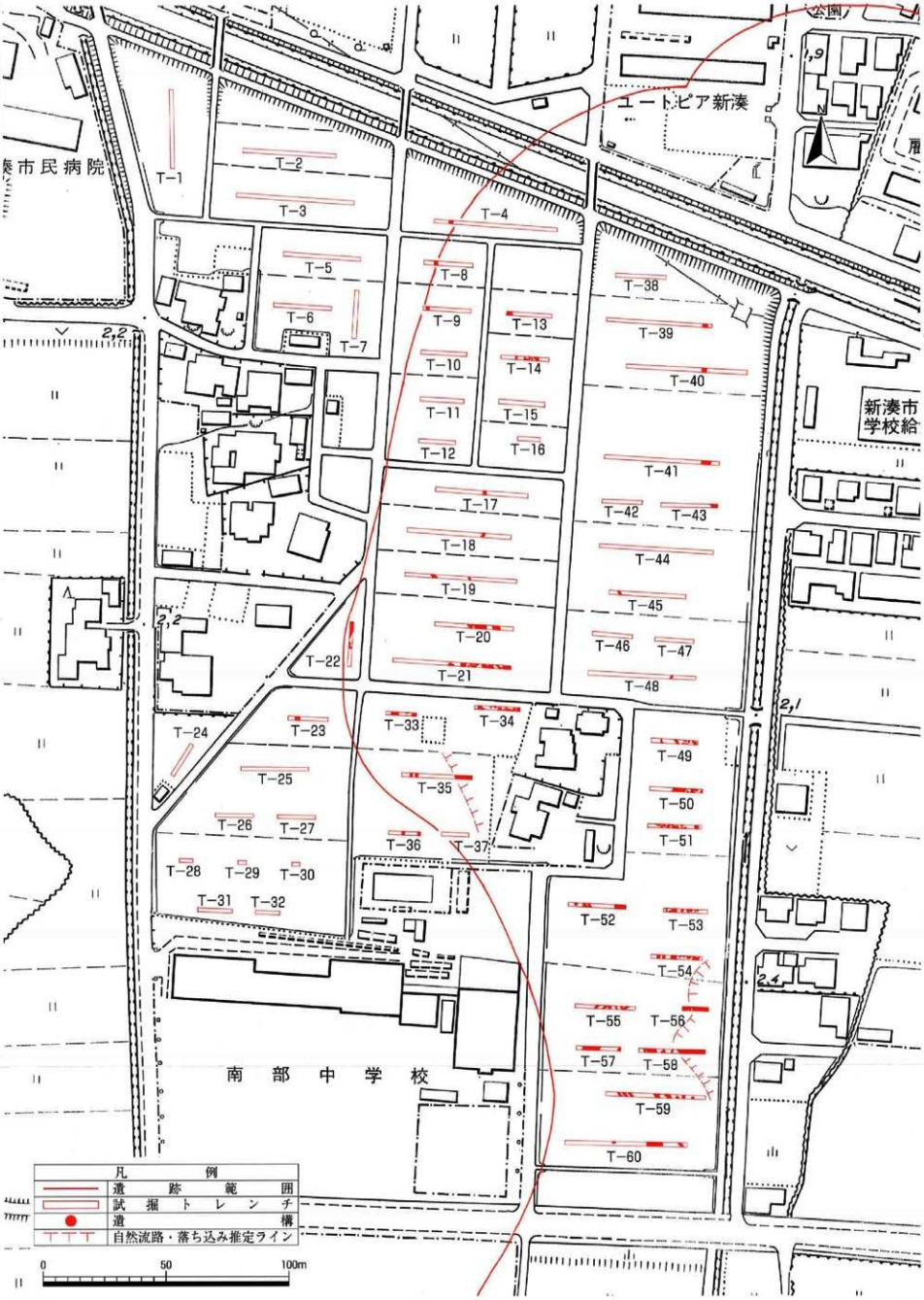
2.5Y　8/1：灰白色　8/2：灰白色　8/3：淡黄色　8/4：淡黄色　7/1：灰白色　7/2：灰黄色　7/3：浅黄色　7/4：浅黄色　7/6：明黄褐色　6/1：黄灰色　6/2：灰黄色　6/3：にぶい黄色　6/4：にぶい黄色　5/1：黄灰色　5/2：暗灰黄色　4/1：黄灰色　3/1：黒褐色　3/2：黒褐色　2/1：黒色

5Y　6/1：灰色　4/1：灰色

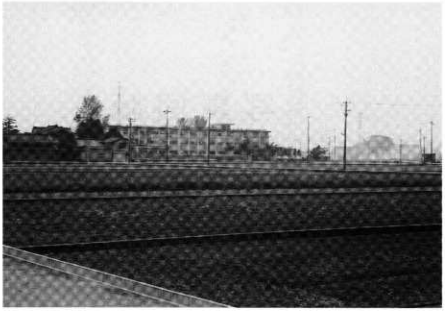
7.5Y　6/1：灰色　5/1：灰色

N　7/0：灰白色　6/0：灰色　5/0：灰色　4/0：灰色

第15図　調査区遺構図（1/1500）



写真図版



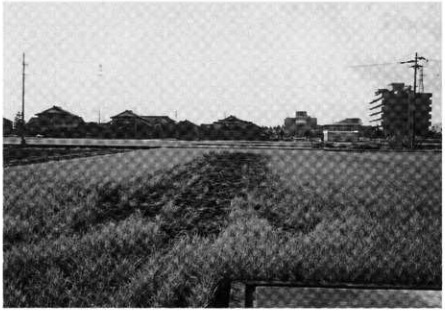
調査対象地遠景
（北から）

作業風景

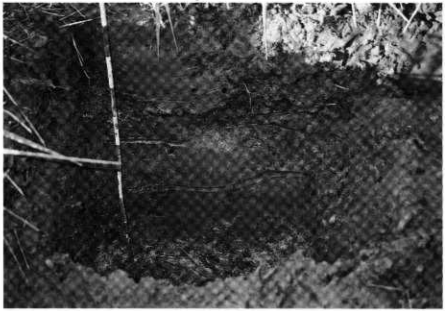
作業風景

作業風景

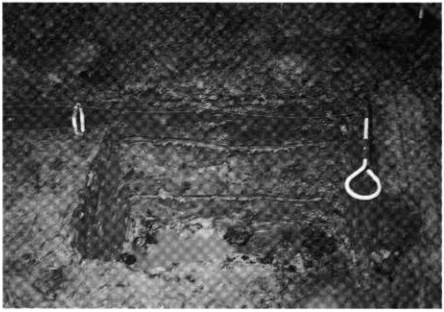
埋戻し作業



埋戻し後



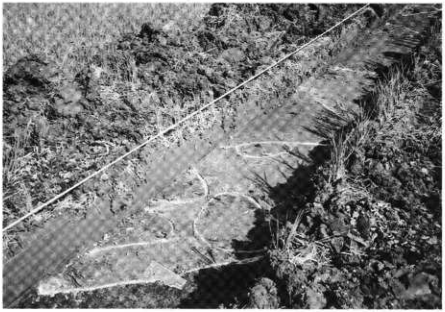
T－14 基本層序



T－40 基本層序

T－14 遺構

T－21 全景



T－21 遺構

T－21 遺物出土状況

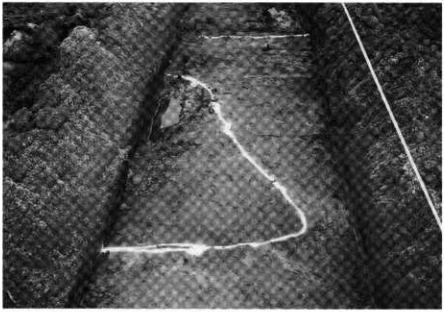
T－21 遺物出土状況

T－21 遺構

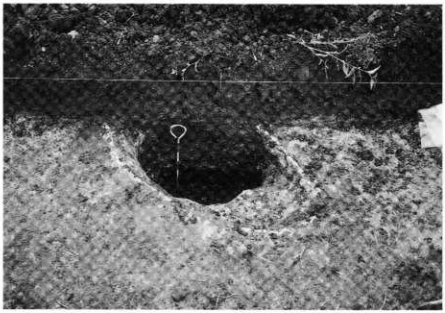
T－21 遺物出土状況

T－21 遺構

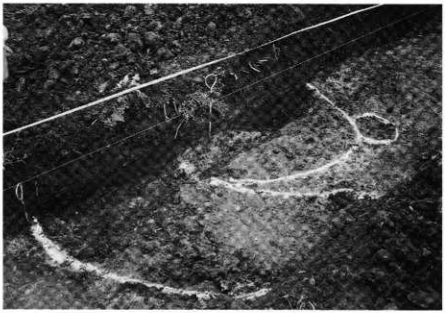
T－22 遺構



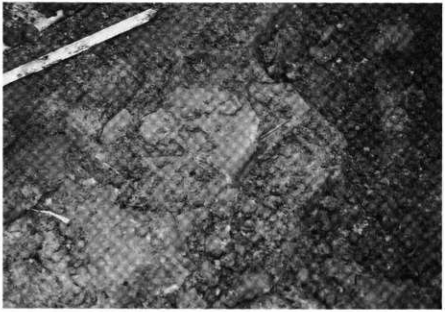
T－33 遺構



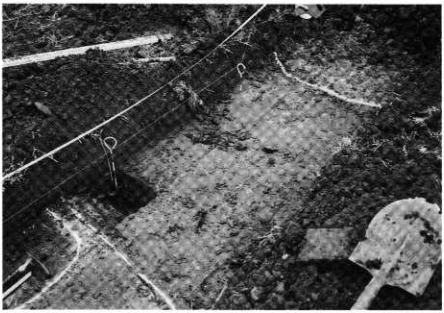
T－34 遺構



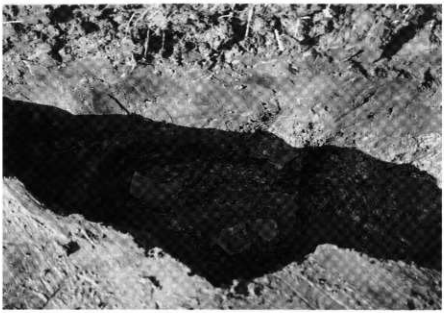
T－34 遺構



T－34 遺物出土状況

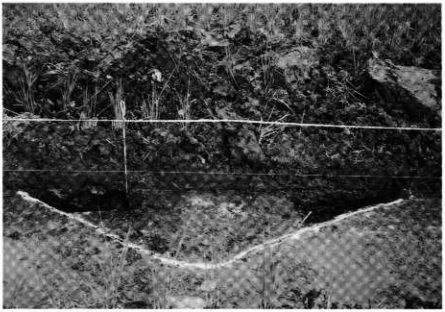


T－34 遺構

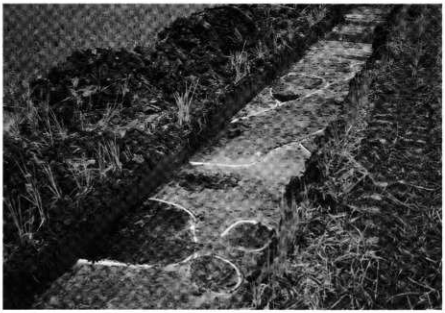


T－35 遺物出土状況

T－49 遺構



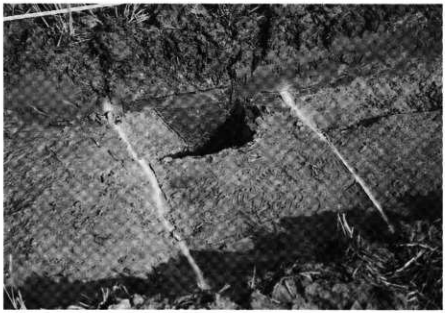
T－51 遺構



T－51 遺構

T－51 遺構

T－52 遺構



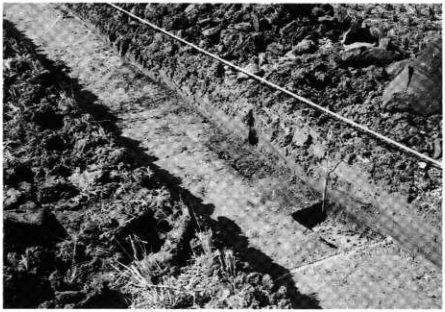
T－53 遺構

T－53 遺構

T－54 遺構

T－55 遺構

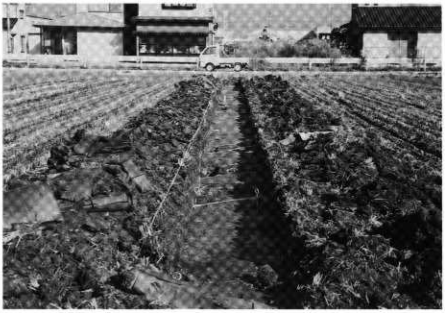
T－56 遺物出土状況



T－58 遺構

T－58 遺構

T－58 遺物出土状況



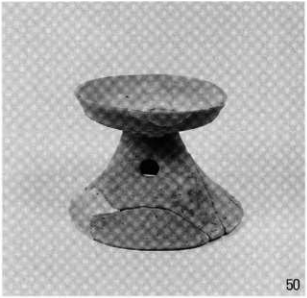
T－59 遺構

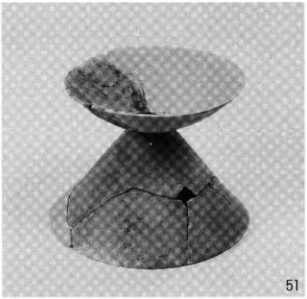
T－59 遺構

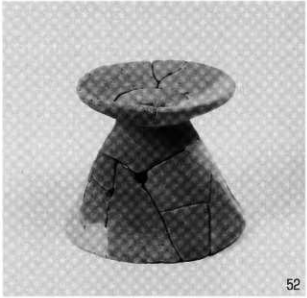
T－60 遺物出土状況

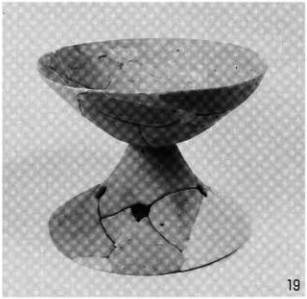
48

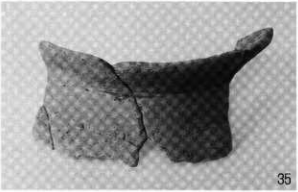
49

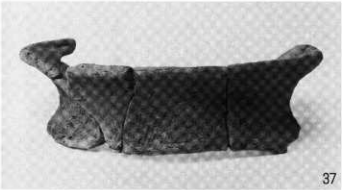

50

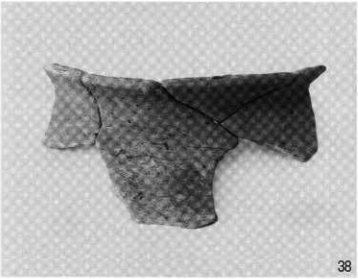

51

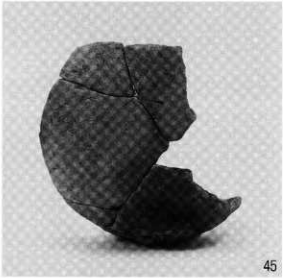

52

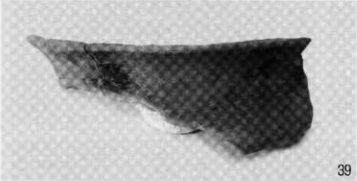

19

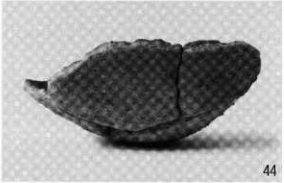

35

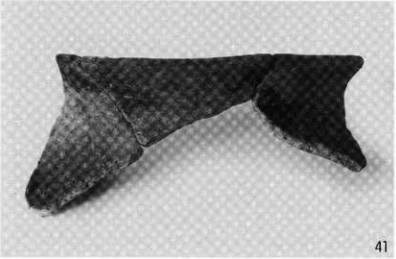

37


38


45

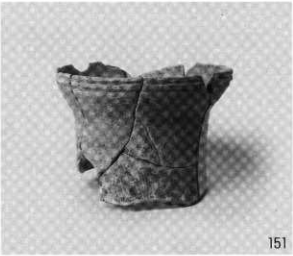

39


44


41

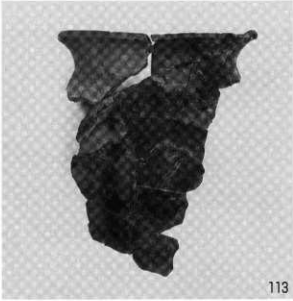
75

218


151

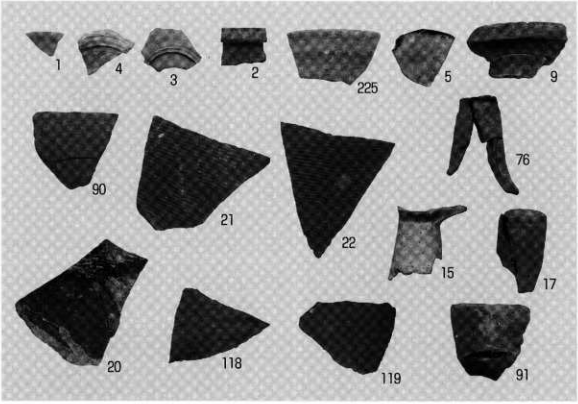
152

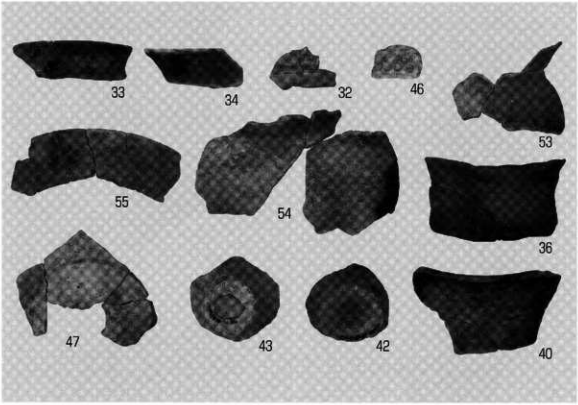
207

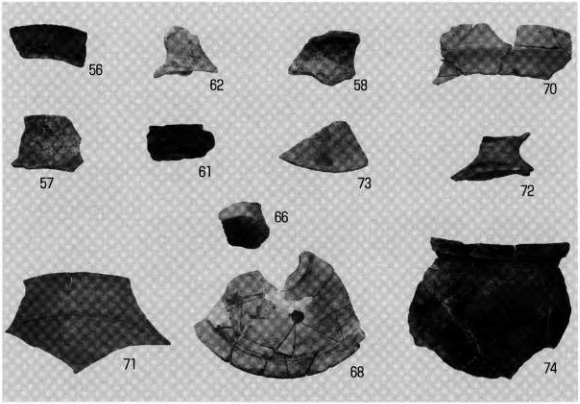

113

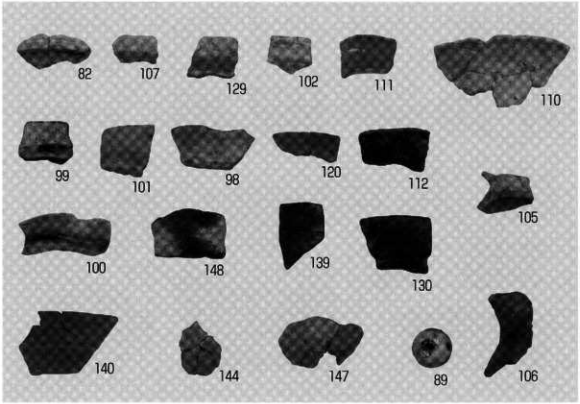
219

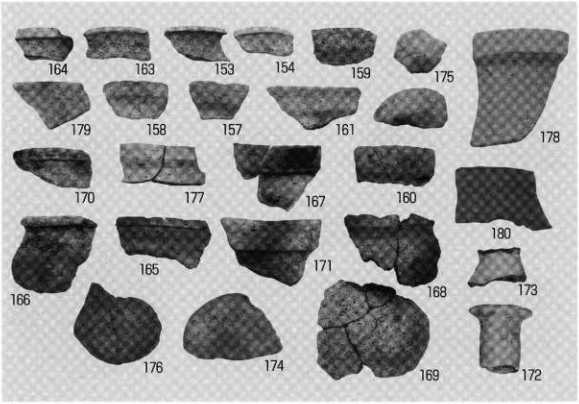
224

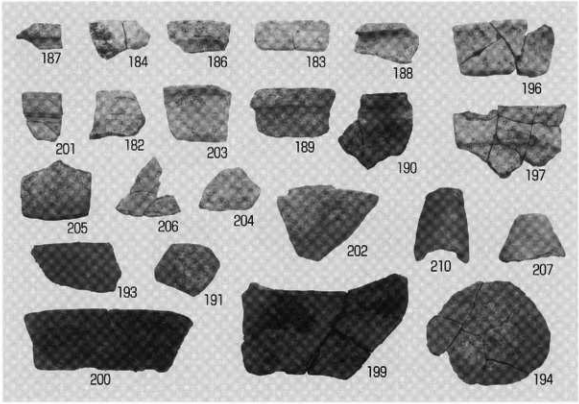

1
4
3
2
225
5
9
90
21
22
76
15
17
20
118
119
91

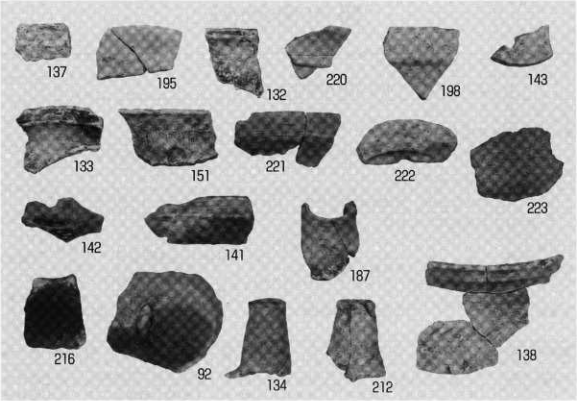

33
34
32
46
53
55
54
36
47
43
42
40

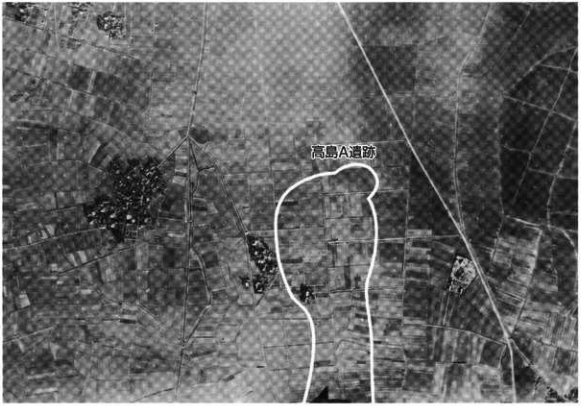

56
62
58
70
57
61
73
72
66
71
68
74


82
107
129
102
111
110
99
101
98
120
112
105
100
148
139
130
140
144
147
89
106


164
163
153
154
159
175
179
158
157
161
178
170
177
167
160
180
165
171
166
168
173
176
174
169
172


187
184
186
183
188
196
201
182
203
189
190
197
205
206
204
202
210
207
193
191
200
199
194





調査対象地周辺航空写真（昭和22年）

この写真は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製したものである。
（承認番号）平14北複、第303号

報告書抄録

ふ り が な	とやまけんしんみなとし　しないいせきしくつちょうさほうこく
書　　名	富山県新湊市　市内遺跡試掘調査報告
編 著 者 名	金三津英則
編 集 機 関	新湊市教育委員会
所　在　地	〒934-8555　富山県新湊市本町二丁目10番30号　ＴＥＬ（0766）82－8312
発 行 機 関	新湊市教育委員会
所　在　地	〒934-8555　富山県新湊市本町二丁目10番30号　ＴＥＬ（0766）82－8312
発 行 年 月 日	平成15年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
高島Ａ遺跡	富山県新湊市 鏡宮	016203	203028	36° 45′ 12″	137° 05′ 17″	20021003 20021107	54,120㎡	土地区画 整理事業

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高島Ａ遺跡	集　落	弥生時代 （中期・後期） 古墳時代（前期）	弥生時代中期～ 古墳時代前期 柱穴・土坑・溝 ・自然河道・落 ち込み	弥生土器・古墳時代 土師器・須恵器（古 代）・珠洲焼・中世 土師器皿・青磁・土 錘・磨製石斧・ヒス イ・緑色凝灰岩・鉄 石英	弥生時代中期～ 古墳時代前期の 集落跡を確認。

平成15年3月31日発行

富山県新湊市
市内遺跡試掘調査報告
新湊市鍛冶地区土地区画整理事業に伴う高島A遺跡試掘調査

編　集　新湊市教育委員会
発　行　新湊市教育委員会
富山県新湊市本町二丁目10番30号
印　刷　㈱二口印刷